

学校教育指導資料

指導力の向上を図る 校内研究の充実のために

～校内研究推進の手引～



平成18年3月

函館市教育委員会

刊 行 に 寄 せ て

近年，急激な社会の進展に伴い，子どもたちに自ら学び，自ら考える力や豊かな人間性などの「生きる力」を育成することが期待されており，学校教育においては，直接子どもたちの指導に携わる教師の指導力の向上を図ることがますます重要になっております。

そのため，各学校におきましては，校内研究の充実を図り，教師一人一人が，自らの職責の重大さを認識する中で，指導方法の改善や指導技術の向上に努めることが重要であります。

こうしたことから，本指導資料は，各学校が，学校課題の解明を図る研究主題を設定し，計画的，日常的な仮説検証によって，授業改善の手立てが明らかにされるとともに，教師一人一人の指導力の向上を図ることをねらいとして作成したものであります。

各学校におきましては，本指導資料に示されている校内研究の意義やその役割を全教職員が十分に理解し，円滑で有意義な校内研究の推進が図られるよう期待いたします。

終わりに，本指導資料の発刊に当たって，指導資料作成委員の皆様に，多大なご協力をいただきましたことに対しまして，心からお礼申し上げます。

平成18年3月

函館市教育委員会教育長

多賀谷 智

目 次

I	校内研究の充実に向けての基本的な考え方	1
1	学校教育への期待	1
2	教職員の資質の向上と校内研究	1
3	学校課題の解明と校内研究	2
4	校内研究を推進するための改善の視点	3
II	校内研究の進め方	4
Q 1	教育研究を推進するためには、どのように進めるとよいですか	4
(1)	教育研究の方法の理解	4
(2)	調査や資料収集の視点と具体例	4
(3)	研究技法の例	4
(4)	研究推進の手順	5
Q 2	校内研究の推進計画は、どのように立てるとよいですか	6
(1)	長期計画の作成～年度にまたがる計画	6
(2)	短期計画の作成～1年間または1学期程度の計画	7
Q 3	研究の目的や内容、方法を明確にした研究主題は、どのように設定したらよいですか	8
(1)	研究主題の設定の意義・視点	8
(2)	研究主題の設定のポイント	9
(3)	研究主題の設定までの手順のまとめ	10
(4)	研究主題と主題設定の理由の記述例	12
Q 4	研究主題との関連を図った研究仮説はどのように立てるとよいですか	13
(1)	研究仮説の意味	13
(2)	研究仮説の設定の留意点	13
(3)	研究仮説の設定の手順	14
Q 5	研究の全体構想はどのようにつくるとよいですか	18
(1)	全体構想図作成のポイント	18
(2)	全体構想図の作成例 ー小学校 特別活動ー	19
Q 6	研究仮説の検証はどのように行うとよいですか	20
(1)	研究仮説の検証のポイント	20
(2)	研究仮説の検証のための計画づくり	20
(3)	検証の方法	22
Q 7	授業研究を進めるためには、どのようなことに配慮するとよいですか	23
(1)	授業設計の手順	23
(2)	指導案例 ー中学校 数学科ー	24
Q 8	授業評価はどのようにすればよいですか	26
(1)	授業評価の計画	26
(2)	研究授業における役割分担	27
(3)	授業記録の整理・分析のポイント	27
Q 9	研究成果を効果的に活用するにはどのようにすればよいですか	28
(1)	研究実践の累積を行う	28
(2)	研究資料や実践記録の整理の方法を工夫する	30
(3)	記録を整理・総合し、考察する	31
Q 10	校内研究を活性化するために、評価をどのようにしたらよいですか	32
(1)	研究過程における評価例	32
(2)	研究に対する教師の自己評価例	33

I 校内研究の充実に向けての基本的な考え方

1 学校教育への期待

近年、急激な社会の変化に伴い、教育の在り方についての見直しが迫られ、各方面から改善を求める提言がなされている。

特に、学校教育においては、子どもたちが主体的に生きていくために必要な思考力、判断力、表現力、学ぶ意欲などを含めた確かな学力を身に付け、生涯にわたって主体的に学び続け、問題を解決していくことができる力の育成が期待されている。

そのため、各学校が校内体制を確立し、自校の教育力を高める取り組みの一層の充実が求められている。

こうした期待に応えるため、各学校は今、学校評価の改善や教育課程の見直し、組織体制の確立や校内研究の充実など、さまざまな視点から学校改善に取り組んでいる。なかでも校内研究については、教職員の資質向上、授業改善、学校課題の解決等の観点から重要な役割を担っているが、具体的な成果に結び付けることが難しいとの実践上の課題も指摘されているところである。

そのため、本書は、研究担当者を始め教職員が、校内研究の意義やその役割を十分に理解し、円滑で有意義な推進を図ることができるよう内容を構成した。

2 教職員の資質の向上と校内研究

教職員には、専門職としての深い知識、広く豊かな教養、実践的な指導力、そして教育者として強い使命感と教育愛が求められ、それらを身に付けるためには、継続的な研究と不断の修養に努めなければならない。

教職の専門性が求められる理由

- ・ 幼児児童生徒の全人格・個人的な発達を促す人間尊重の教育の推進
- ・ 教育内容・方法の厳選や多様化
- ・ 生涯学習社会と教育に対する機会の拡大
- ・ 生活環境の変化や子どもの問題行動の増加など、新たな教育課題への対応

教職の専門性の内容

- ・ 教科に関する専門的な知識・技術
- ・ 幼児児童生徒の発達に関する専門的知識
- ・ 広い教養と豊かな人間性
- ・ 子ども一人一人のニーズに対応する知識・技術
- ・ 人間教育の基本的原理に基づいた広い視野と識見

校内研究は、学校教育目標の具現化に向けた学校経営上の課題を解決するために推進され、全教職員が自校の教育目標を達成するために、共通のテーマを設定し、計画的、組織的に取り組む活動である。したがって、「どのような問題や課題を解決するために行うのか」という研究の目的が明確になっていることが重要であり、課題の解決の過程に全教職員が参加し、研究実践を行うことに大きな意義がある。

さらに、校内研究は日々の教育活動と一体に行われるものである。学習指導や生徒指導上の課題を取り上げて積み上げられる研究実践は、教職員相互の実践交流や協議を通して、日々の指導や授業の改善へと結び付いていくものである。つまり、**校内研究の過程は、教師のモラルと指導力の向上の過程そのものであり、校内研究の改善・充実が強く求められる**所以である。

3 学校課題の解明と校内研究

校内研究は、教員一人一人の力量を高めるとともに、**学校課題の解決を図る過程において全教職員の意識を高め、教育活動の一層の充実を目指すものでなければならない。**

校内研究は単に研究課題を追究し、その解決によってのみ評価されるものではなく、その研究によって学校の教育活動がどのように見直され、研究成果がどのように子どもの変容につながったかが評価される必要がある。すなわち、校内研究の成果を各学校の教育課程や指導の改善・充実に結び付けることが重要である。

また、学校経営の推進に当たっては、校内研究をどのように有効に機能させていくかという視点をもって、校内研究を推進することが大切である。

「確かな学力」の定着を学校課題とした場合の研究の視点

「確かな学力」の定着を学校課題とした場合、以下のように、「確かな学力」の向上を目指す授業改善の視点を示し、校内研究の成果を授業改善に生かすこと、さらに、「開かれた校内研修」を推進していくことが重要である。

・「確かな学力」の向上を目指す授業改善の視点

子どもの学力の状況を客観的に把握し、指導計画の見直しや指導改善のポイントを焦点化するなど、学習指導の一層の工夫を図ることが必要である。また、家庭と連携を図り、学習習慣を身に付けさせることや、一人一人の学習内容の習熟の程度に応じた指導を効果的に取り入れること、さらに観点別学習状況について評価観点ごとの評価規準や評価方法等の改善に努めることなどが必要である。

・校内研究の成果を授業改善に生かす視点

校内研究においては、「確かな学力」をはぐくむという共通認識の下、研究のねらいや内容がわかりやすく構造化され、日常の教育活動に結びつく校内研究の充実に努めることが望まれる。さらに校内研究の成果を教育課程の編成・実施に生かすことや、教科経営、学年・学級経営において具体的な方策を適切に位置付けることが重要である。

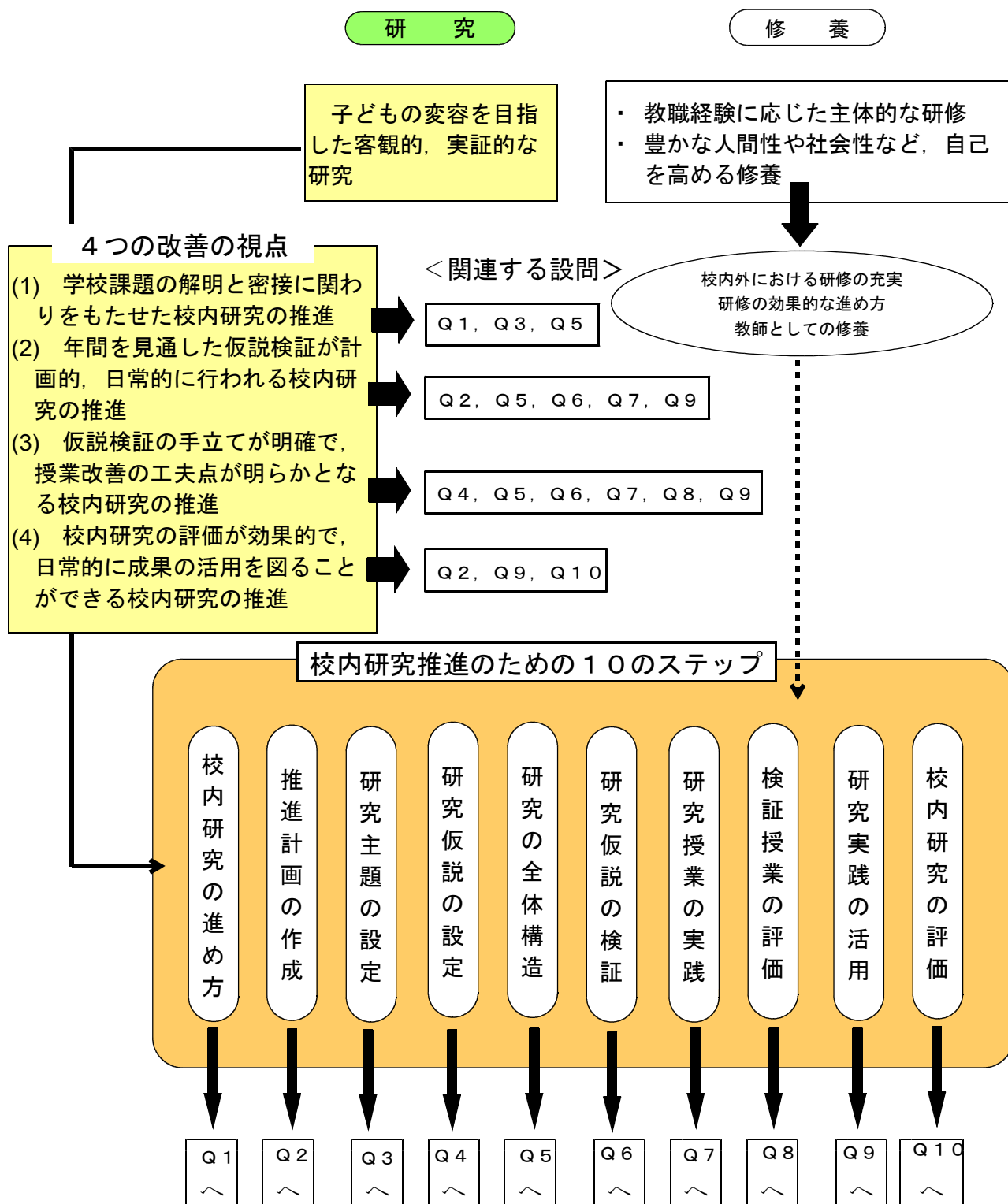
・校内研修を開かれたものにするための視点

校内研究の成果は校内だけにとどめず、保護者や地域住民に公開したり、学校間や関係機関との連携、外部講師の招聘等を積極的に行うなど「開かれた校内研修」の推進に努めることが大切である。

4 校内研究を推進するための改善の視点

校内研究を推進するに当たっては、①研究の内容が学校課題の解明と密接な関わりをもっていること、②計画的、日常的に仮説検証が行われること、③仮説検証のための手立てが明確であること、④校内研究の評価が計画的に行われ、日常的に成果の活用が図れるようになっていること、という視点をもつことが大切である。

本書では、この4点を校内研究推進の改善の視点として位置付け、その方策を具体的に示していく。



Ⅱ 校内研究の進め方

Q 1 教育研究を推進するためには、どのように進めるとよいですか

教育研究を推進するためには、研究の方法や研究技法を理解することが大切である。研究の目的や内容によって、どのような方法が適切か、実践研究の各段階でどのような研究技法を位置付けることが有効かを十分検討した上で、研究を推進していく必要がある。

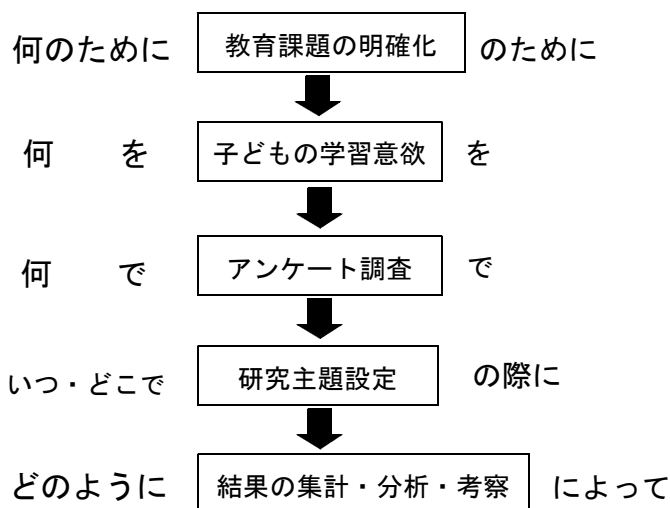
また、研究を構想し、円滑に推進していくためには、研究推進委員会など推進組織との関係、校内研究会のもち方など、研究推進の方法や手順を明らかにすることが重要である。

- ア 研究内容や方法に応じた研究組織と人的配置の工夫
- イ 研究推進組織を機能させるリーダーシップの発揮
- ウ 研究推進担当者の主体性や責任分担を明確にした運営
- エ 形式的に陥らない研究仮説の検証を目的とした校内研究会の実施

(1) 教育研究の方法の理解

理論的研究	教材開発研究	調査研究	実験的研究	事例研究	授業研究
自己の教育理論を裏付けるために、文献をもとにしてまとめるもの。単なる文献利用や独断に陥らないように注意する。	教育実践に役立つ教材や教具の開発を行うもの。教材の論理性、子どもの心理的効果などについて検討する必要がある。	調査を実施し、その結果を分析・考察するもの。データの集計だけでなく、構造的に分析・考察を行うことが大切である。	仮説を立て、詳しい実験操作によって有効性を確かめようとするもの。学校で行うには困難な場合が多い。	特定の子どもを対象に行われるもの。収集した資料をもとに因果関係を追究し、指導法や治療法を発見するものである。	授業の改善・充実を図るために仮説を立て、授業実践を通して検証し、その方策を導き出すものである。

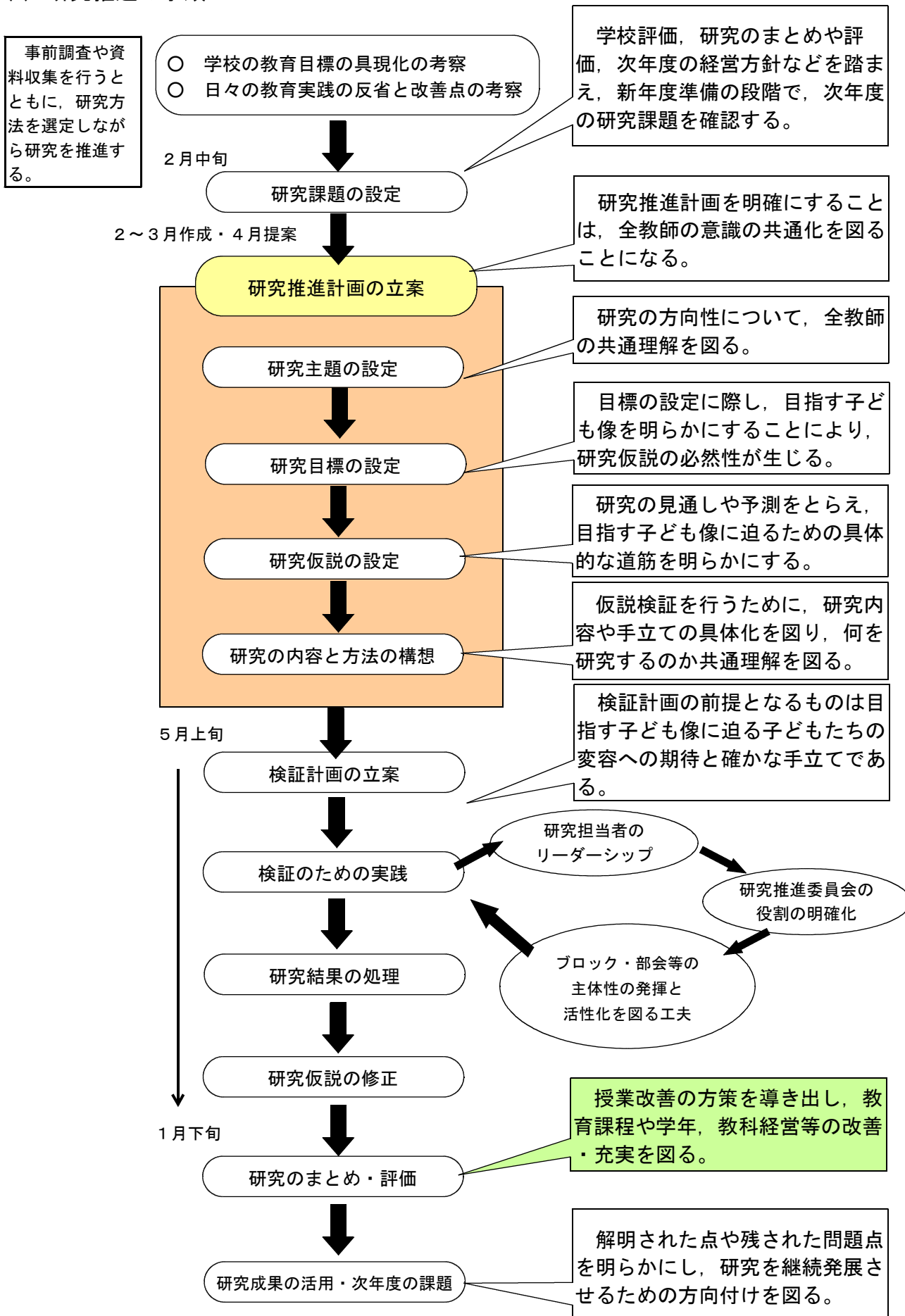
(2) 調査や資料収集の視点と具体例



(3) 研究技法の例

- ・ブレインストーミング法
 - ・KJ法
 - ・ポート法
 - ・質問紙法
 - ・観察法
 - ・面接法
 - ・知能検査
 - ・性格検査
 - ・適性検査
 - ・学力検査
 - ・教育評価法
 - ・教育統計法
- 発想・計画の技法
- 教育調査法
- 教育・心理検査法

(4) 研究推進の手順



Q 2 校内研究の推進計画は、どのように立てるとよいですか

校内研究を推進するにあたっては、学校の教育課題の解明や研究主題の具現化に向けて、校内研究の全体構造と年間の推進計画を明確にすることが重要である。

校内研究のスタートは、年度当初の校内業務の多忙さから、遅れがちになる傾向があるが、日常の教育活動との関連を図りながら計画的に推進することが大切である。

また、校内研究の推進状況に応じて、研究主題に即し、具体的な研究のねらいや目指す子ども像に沿って、評価や見直しを行っていくことが必要である。そのためには、「あらかじめ研究を推進していく節目ごとに、具体的な評価項目を位置付けておく」ことが有効である。(→P 32 参照)

研究推進に応じて評価や見直しを図るとともに、あらかじめ評価項目を全教職員で共有しておくことは、どの時期に、何を、どのように行っていけばよいか、各自が主体的に研究の見通しをもちながら、実践状況の点検を行いやすいという利点がある。

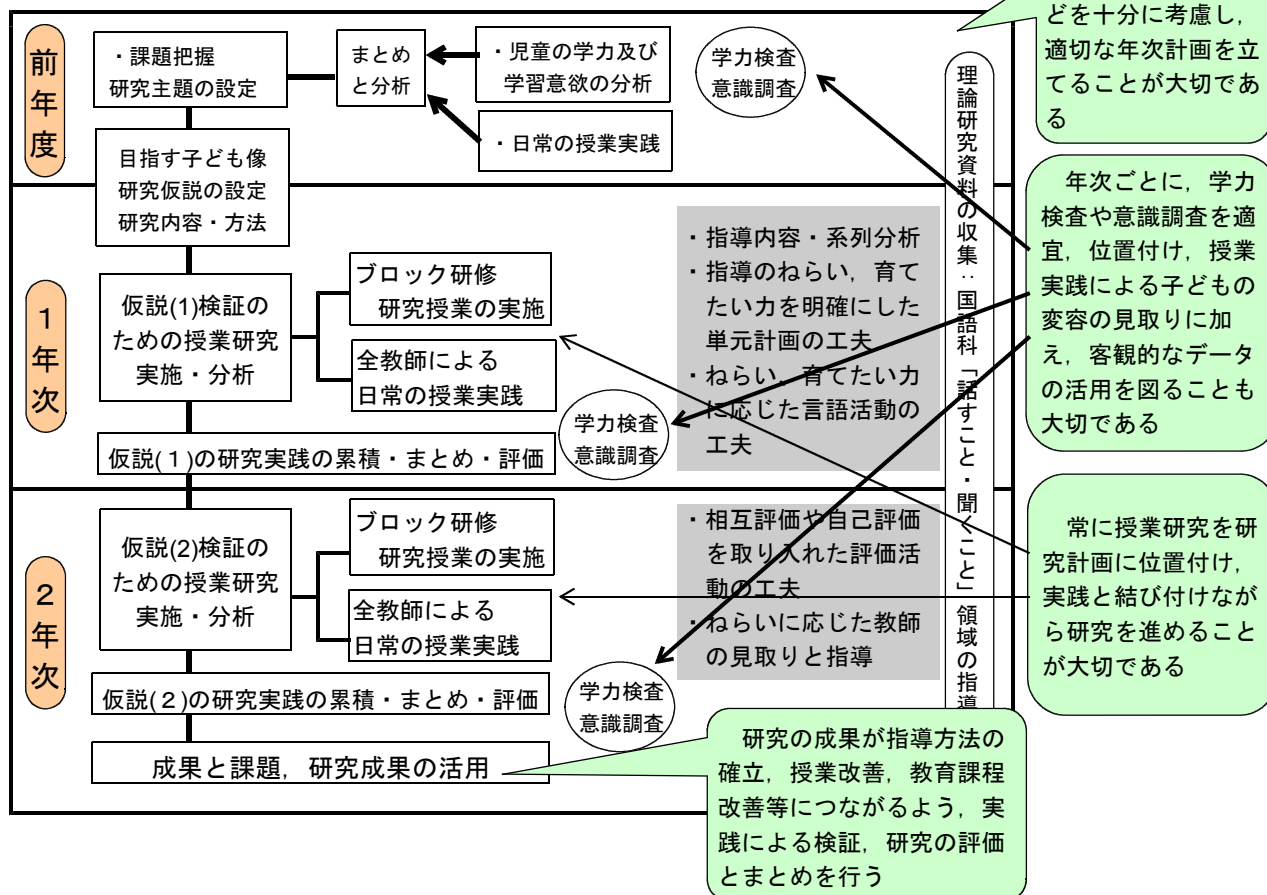
(1) 長期計画の作成 ～年度にまたがる計画（○年次計画等）

計画作成のポイント

- 学校の教育目標との関連をはじめ、教育活動の全体構想との一貫性を図ること。
- 長期計画と短期計画との相関を明らかにし、具体的な見通しをもって作成すること。
- 計画全体がだれにも理解できるように簡潔に整理し、イメージ化されていること。
- 必要に応じて計画の見直しができるような柔軟性があること。

など

〈長期計画の作成例〉



(2) 短期計画の作成 ～ 1年間または1学期程度の計画

計画作成のポイント

- 学校評価や新年度準備の段階で、次年度の研究の大まかな見通しを立て、4月には研究推進計画が提示できるように作業を進める。
- その年の研究によって何をねらうのか具体的に目標を立てる。
- 1年を大まかな段階に区切って立案し、各段階ごとに評価項目を位置付ける。
- 年間の教育活動全体とのバランスを見ながら計画を立てる。
- 年間・月・週行事の中で研究日を設定する。
- 個々の教職員が実践研究に向け、どのように取り組めばよいかを明確にする。
- 1学期あるいは2～3か月ごとにきめ細かな計画や見通しを示す。
- 研究のまとめを見通した推進計画を立てる。
- 年度末評価が実質的に機能するよう計画し、次年度の研究計画が前年度中に立てられるように取り組む。

〈短期計画の作成例〉

●全体研修 ○ブロック研修 ◆研究推進委員会 ◇研究部

月	段階	研究部・研推委・ブロック	研究過程	評価項目
3	計	◇学校評価、次年度の経営方針を受けた次年度の研究の構想 研究主題、 推進計画、 目指す子ども像（研究目標） 研究内容と方法の構想 研究仮説の設定 研究構想図	課題把握	①子どもの実態から把握された切実なものか
			研究主題の設定	②指導改善・授業改善に結び付くものか ③教育目標や学校課題に結び付いているか
4	画	●研究部提案・協議 ◆研究体制づくり →研究推進委員会① ○研究推進計画に沿った日程、 研究内容、分担等の決定 仮説検証に向けた視点 →ブロック研修①	研修計画	①研究組織は研究内容や規模に適しているか ②研究日程は無理なくつくられているか ③視野を広げるため助言者等を位置付けているか ④仮説検証のための方法が適切で全員に理解されているか
			研究目標（子ども像）の設定	①子どもの実態から把握された切実なものか ②指導改善・授業改善に結び付くものか ③教育目標や学校課題に結び付いているか
5	実	●研究部提案 研究推進計画の細案提示 研究資料の提示 ●ブロック提案 ブロックの仮説検証計画 仮説に基づく視点 ○研究資料に基づく理論研究 日常実践における視点 検証授業の計画など →ブロック研修② ◆推進状況・内容の交流・調整 →研究推進委員会②	仮説の設定	①仮説を焦点化し、具体化できるように工夫してあるか。 ②文献や子どもの実態把握など設定のための根拠が明確か
			検証計画	①検証目標の分析や観点が明確になっているか ②検証資料の収集場面や方法が具体化されているか ③検証資料の処理やその解釈の方法が明確になっているか
6	践	●研究授業① 研究部による検証授業提案	仮説検証	※研究の過程に沿って、評価項目を位置付けておく ※評価実施例 ・計画段階→研究部による自己評価 ・実践段階→ブロックごとに実施 実践期間に2回程度実施 など
			日常の授業実践を含む	

Q 3 研究の目的や内容，方法を明確にした研究主題は，どのように設定したらよいですか

研究主題の設定については，学校としての課題を明確にし，その解明を図る研究主題を設定することが大切である。

そのためには，研究推進委員会などが中心となり，学校評価や年度末の反省，さらに，それまでの研究の成果や教職員の願いなどを生かすように配慮しながら，適切な主題の設定へとつなげる必要がある。

(1) 研究主題の設定の意義・視点

① 研究主題の設定の意義

研究主題を設定する意義については，次のことがあげられる。

- 研究の方向性を明確にし，全教職員が共通理解のもと，協力して研究を深めることができる。
- 研究対象の分野や領域，手立てを明確にすることができる。
- 全教職員の共通理解のもと，継続的，計画的に研究を進めることができる。
- 研究組織の編成，研究方法の構想を計画的に行うことができる。
- 各学年の発達段階をとらえ，子どもの変容を長期的に観察し，全校体制で研究課題を追究することができる。

② 研究主題の設定の視点

研究主題の設定にあたっては，一部の教師だけで主題を設定すると，多くの教師の問題意識が高まらず，組織的な取り組みとならないことが懸念されることから，全教職員の共通理解を図ることが重要である。

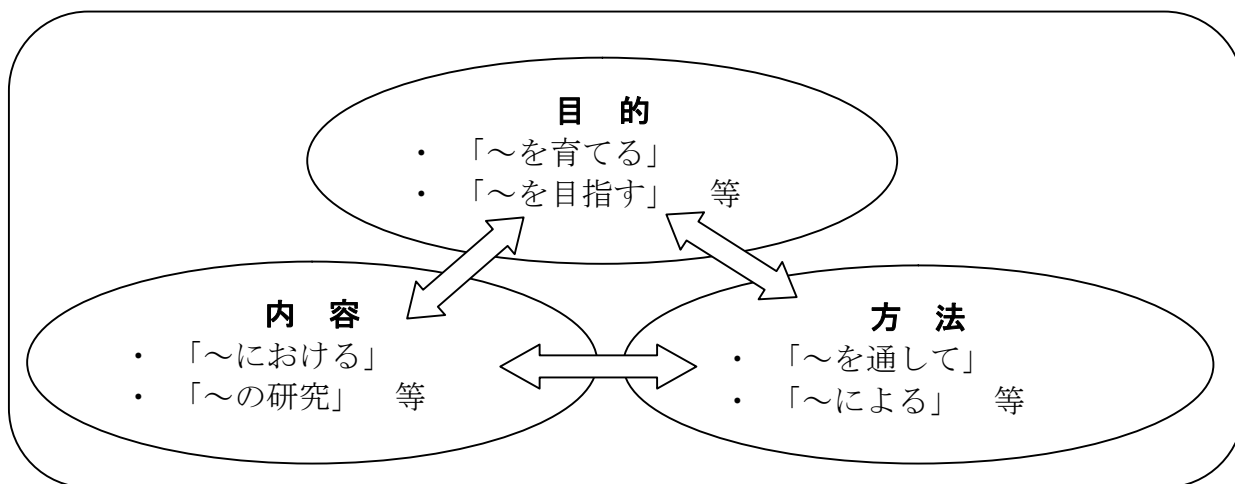
そこで，次のような点を踏まえて，研究主題を設定することが大切である。

- 学校の教育目標や前年度の重点教育目標について，再検討する。
- 子どもの実態を把握し，そのよい点や課題について共通理解を図る。
- 教師一人一人の願いを把握する。
- 教育関係の書物や新聞など，様々な情報源から，教育の今日的課題をとらえる。

(2) 研究主題の設定のポイント

研究主題には、研究の目的（目指す子どもの姿）や内容（対象領域・分野）、方法（手立て）が明確に、端的に表現されることが大切である。

研究主題



<例1> 研究の目的、内容、方法を研究主題、副主題で表現した例

目的：めあてをもち、最後まで意欲的に学習する、ねばり強い子を育てる。
内容：算数科教育を通して、一人一人の子どもが達成感や充実感を味わわせることができるよう学習指導の改善を図る。
方法：教材の工夫、学習形態の工夫、学習過程の工夫、個に応じた指導の工夫など、学習指導の工夫を通して研究を進める。



主題で目的を示し、副主題で内容や方法を示している。

主 題	意欲をもって学習する子どもの育成
副主題	達成感や充実感がもてる算数科の学習指導の工夫

<例2> 研究主題で目的、副主題で内容や方法を示した例

主 題	思いやりの心をもち、たくましく生きる子どもの育成
副主題	道徳の時間と豊かな体験活動の充実を図った道徳教育を通して

<例3> 研究主題で目的や内容、副主題で方法を示した例

主 題	意欲的な学習態度を育てる国語科の学習指導の工夫
副主題	授業における導入段階の工夫を通して

<例4> 研究主題で内容や方法、副主題で目的を示した例

主 題	学習過程における評価とその生かし方
副主題	学習の基礎的・基本的な内容の定着を目指して

(3) 研究主題の設定までの手順のまとめ

研究主題は、一般的に次のような手順で設定していくことになる。

背景

学校の教育目標・重点目標

校内研究は、学校の課題を解明するために行われるものであり、学校の教育目標の達成に迫るための一つの方策である。学校の教育目標は、人間形成の全体像として設定されているので、当面の課題を焦点化して研究主題を設定することが大切である。

社会的な要請・最近の教育動向

公教育を行う学校は、社会的な要請に応えていかなければならない。学校の教育目標は、関係法令や学習指導要領、子どもや家庭、地域の実態等を踏まえながら設定されるが、研究主題についても、これらを踏まえることが大切である。

また、急激に変化し続ける社会に対応するため、書籍や新聞、テレビ、教育雑誌などにも目を通し、様々な情報の中から最近の教育動向をとらえることが必要である。

子どもの実態

子どもの変容を図るため、子どもの実態をとらえ、課題を明確にし、その解明のために積極的に取り組むことが大切である。

家庭や地域の実態

家庭や地域の実態において、生徒指導上の課題がある場合などは、子どもの健全育成に関する研究主題が設定されることが多い。そこで、家庭や地域との綿密な連携を図るため、地域に根ざした教育活動の展開を目指した研究主題が設定することが大切である。

学校評価・過去の研究実践

校内研究は、単に継続するだけでは発展しない。成果をさらに生かし、新たな課題の解明につなげることが大切である。したがって、校内研究は、学校評価において評価し、改善していくことが大切である。

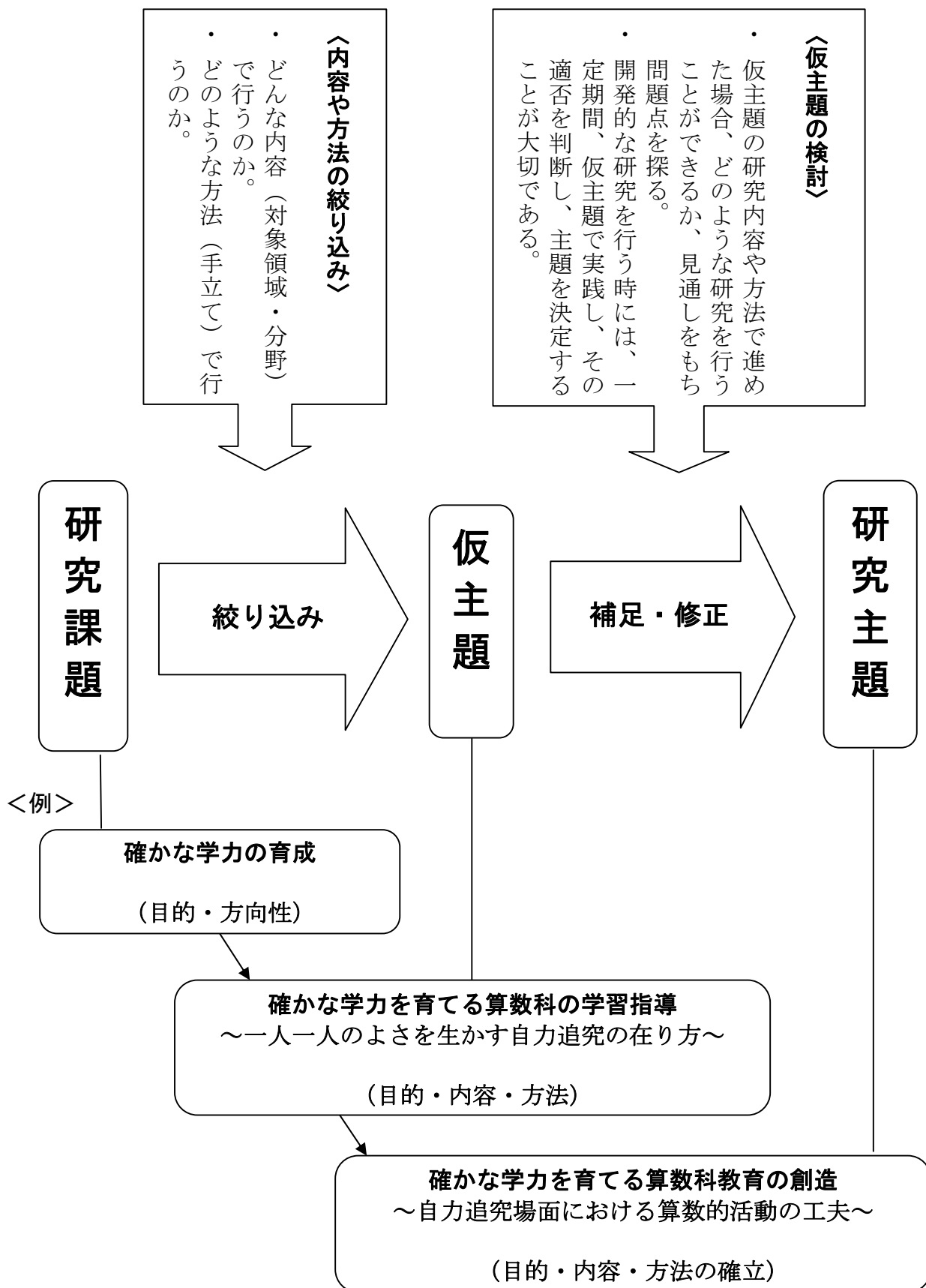
〈焦点化の視点〉

- ・重要性はどうか。
- ・時代性はどうか。
- ・地域性はどうか。
- ・緊急性はどうか。

課題の焦点化

〈焦点化における留意点〉

- ・課題についての共通理解を図る。
- ・課題解決への意欲を高める。



(4) 研究主題と主題設定の理由の記述例

次の内容は、研究主題と主題設定の理由の記述例である。この例では、主題設定の理由の中に、研究主題の設定の背景を視覚的にわかりやすく取り入れていることが特徴である。

<研究主題>

確かな学力と豊かな心を育む教育課程の創造
～評価を生かした〇〇小プランの実践を通して～

<主題設定の理由>

学習指導要領における内容の3割削減や総合的な学習の時間における単元開発、学ぶ内容や方法の違いなど、今、確かな学力を一人一人の子どもにどのように身に付けさせていくかが問われている。そのとき、「教科ではしっかり教える」「総合では子どもの興味や関心から自由に学びを進める」という指導観や学力観では、真の知の総合化を目指す我々教師や子どもたちの中に、混乱が起こるおそれがある。

教科、道徳、特別活動と総合的な学習の時間での学びは、決して相反するものではなく、子どもが自ら学び、自ら考えることを積み重ねていくことが共通の基盤になっていると考える。そのとき、基礎・基本をどのようにおさえ、また、教科固有の内容や総合的な学習の時間の子ども観、指導観、評価観等をどのように授業づくりに反映させるのか、教科・道徳・特別活動等の指導改善の課題がここにある。

児童の実態

学習への取り組みは意欲的であるが、じっくり考えたり、見つめたりすることが苦手な傾向にある。また、基礎・基本の定着に個人差が見られる。

保護者の願い

学習面では「考える力」「表現力」「根気」を伸ばしてほしいと願っている。生活面では、「思いやりの心」を重視している。

教師の願い

確かな学力を一人一人の子どもにしっかりと身に付けさせたい。また、生活科や総合的な学習の時間の計画・実践・評価・改善を引き続き行っていきたい。

社会の要請

生涯教育への指向、自然体験や社会体験の重視、心の教育の充実、環境問題や国際化、情報化等の現代的な課題への対応を図ることが必要である。

最近の動向

研究の主流は、教科指導からカリキュラム開発や心の教育へと移行してきており、基礎的・基本的な学習内容を確実に身に付けさせることが求められている。こうしたことから、子ども観、指導観、評価観等を転換し、個に応じた指導と評価を工夫し、改善を図ることが必要である。

研究の経過

〇年度～〇年度：思いやりのある心を育む学習指導や互いのよさを認める諸活動の研究
〇年度～〇年度：子どもの自立と共生を目指す、生活科・総合的な学習の時間の研究

以上のことを踏まえ、子どもが主体的に学ぶ力を身に付ける学習指導の在り方や、指導の改善及び教育課程の適切な編成の在り方を究明したいと考え、本研究主題を設定した。

今年度は〇か年計画の〇年次であることから、道徳教育における「個に応じた指導と評価」を実践する中で、指導の工夫や改善を図ることを重点とし校内研究が日々の実践に役立つようにしたいと考えた。さらに、それらを通して、学校の教育課程全体を視野におき、子どもたち一人一人の人間性を豊かなものにし、生きる力を育むようにしたいと考えた。

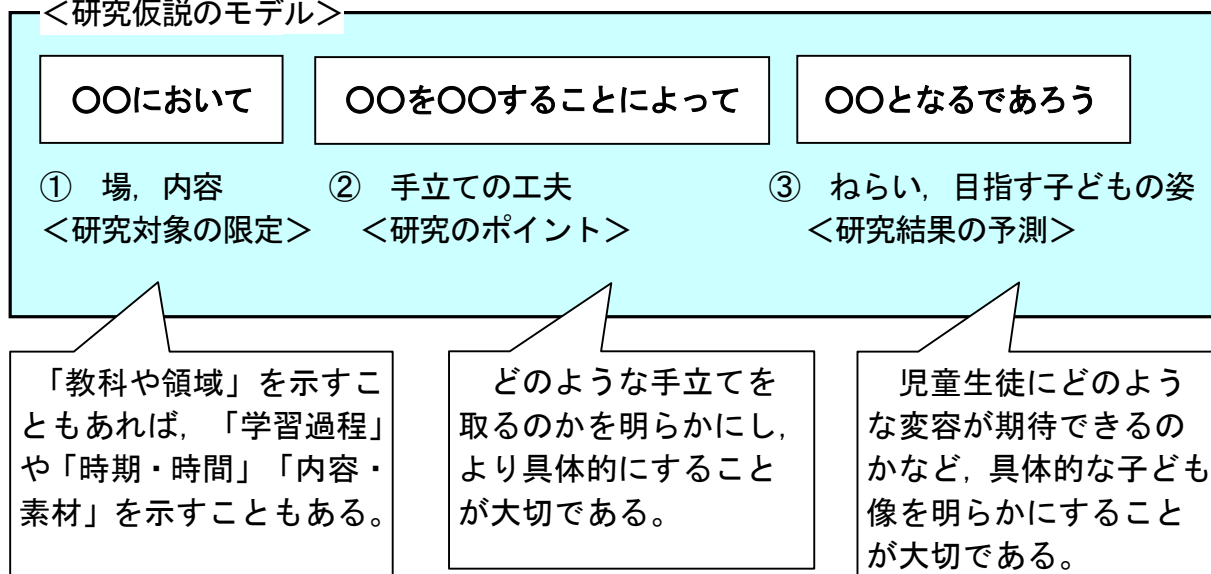
※ 函館市立 H 小学校の研究より

Q 4 研究主題との関連を図った研究仮説はどのように立てるとよいですか

(1) 研究仮説の意味

研究仮説とは、研究の見通しや予測にあたるもので、研究結果についての仮の判断である。研究仮説を設定することによって、研究主題に迫るための具体的な道筋を明らかにし、研究に対する教師間の共通認識、共通理解を深めることができる。

<研究仮説のモデル>



(例)

道徳の時間において	道徳的な価値に対する多様な見方を類型化することにより	自己を振り返ることができる、よりよい生き方が自覚できるだろう
調べたことを発表する段階で	多様な表現方法を伝え、活用する場を設定し、指導方法を工夫することにより	みんなにわかりやすい発表ができるようになるだろう

(2) 研究仮説の設定の留意点

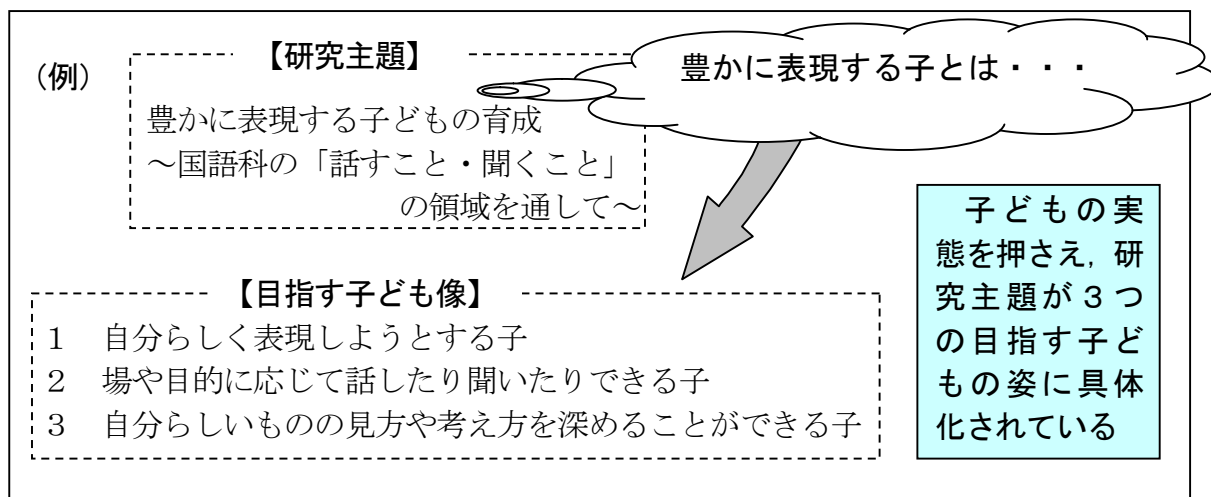
研究仮説を設定するにあたっては、次の点に留意する必要がある。

- (1) 学校の教育目標とのつながりを明確にする。
- (2) 児童生徒の実態を踏まえ、目指す子ども像を明確にする。
- (3) 日常の教育活動で、全教師が取り組むことができる手立てを明確にする。
- (4) 仮説は常に検討され、修正されることにより成果を得ることができる。実践によるフィードバックを通し、必要に応じて仮説の修正を行う。

(3) 研究仮説の設定の手順

① 研究主題との関連を押さえ、目指す子ども像を具体化する

学校・地域の実態やこれまでの研究の成果と課題、学校の教育目標などを踏まえて研究主題を設定するが、その過程で共通理解を十分行うことにより、目指す子どもの姿を明確にすることができる。



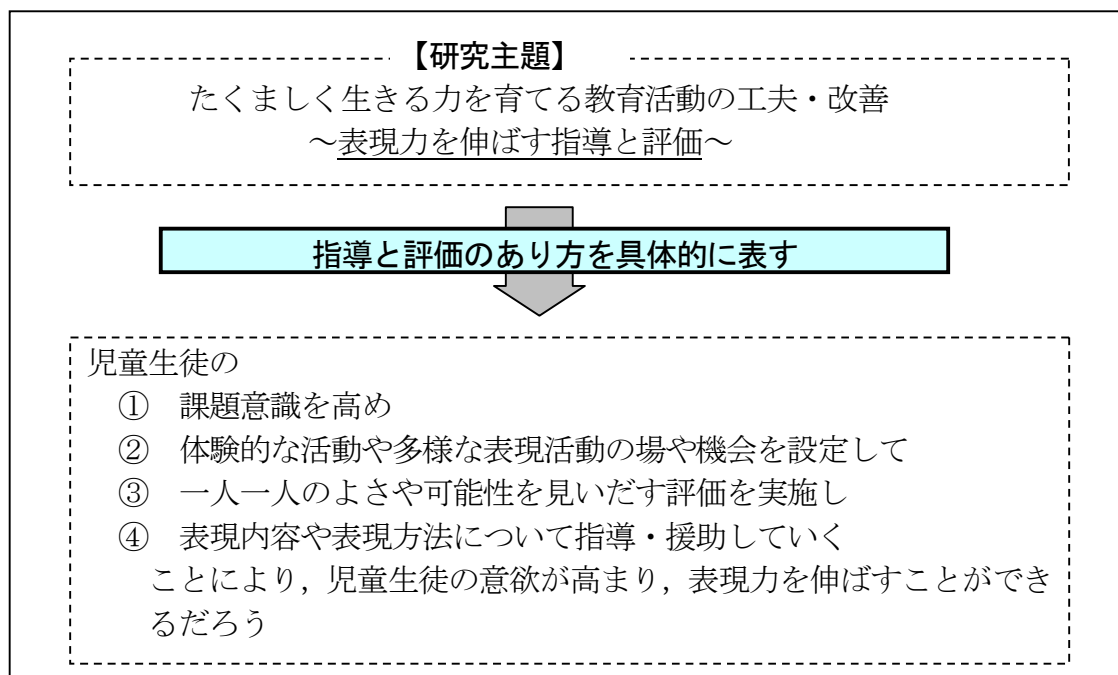
② 他校の先行研究や文献を収集し、分析する

学校によって実態は異なるが、他校の研究を参考として生かすことによって、これから取り組もうとする研究の見通しを具体的にし、研究方法のヒントを見付けることができる。

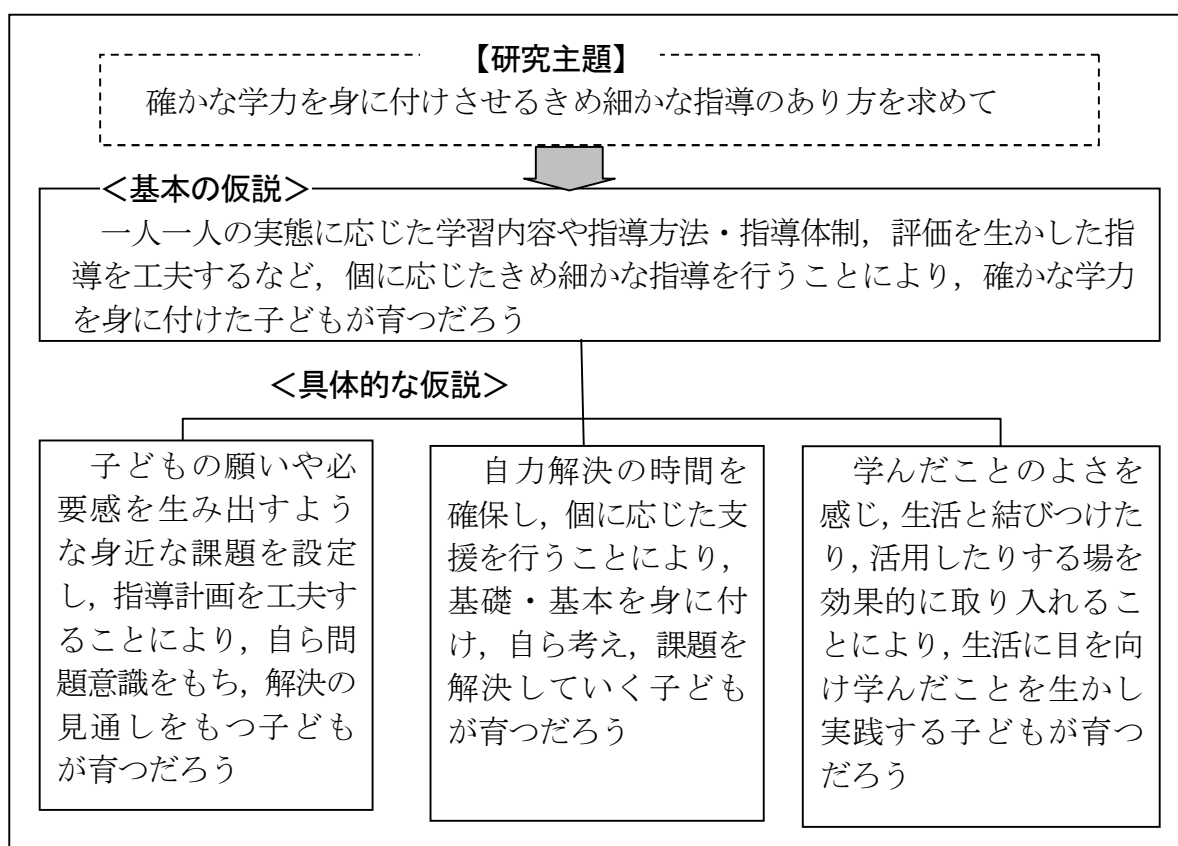
③ 研究仮説を設定する

様々な研究仮説の設定の仕方が考えられるが、学校としての考えを明確にし、全職員の共通理解が図ることが大切である。

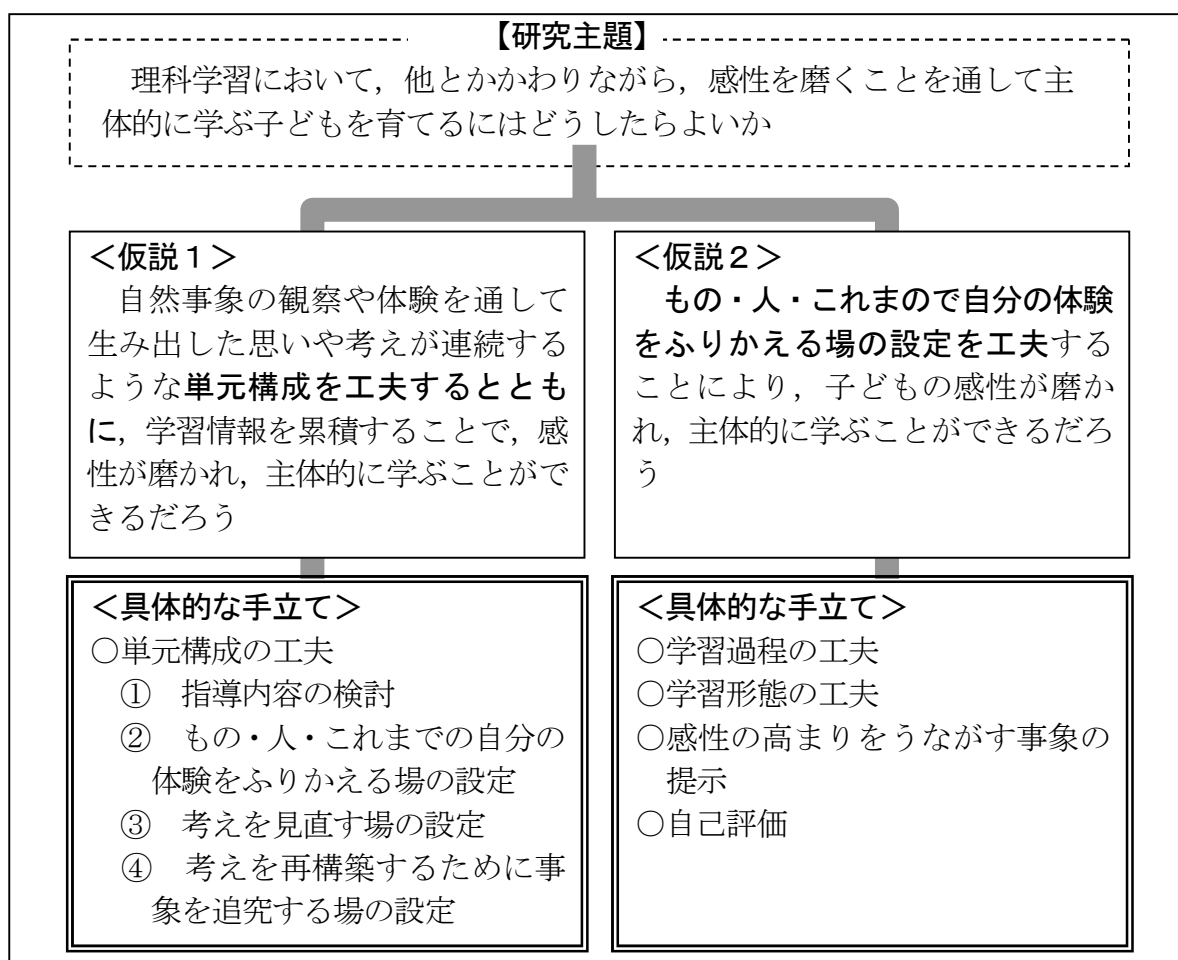
(例1) 指導過程に沿った研究仮説の設定



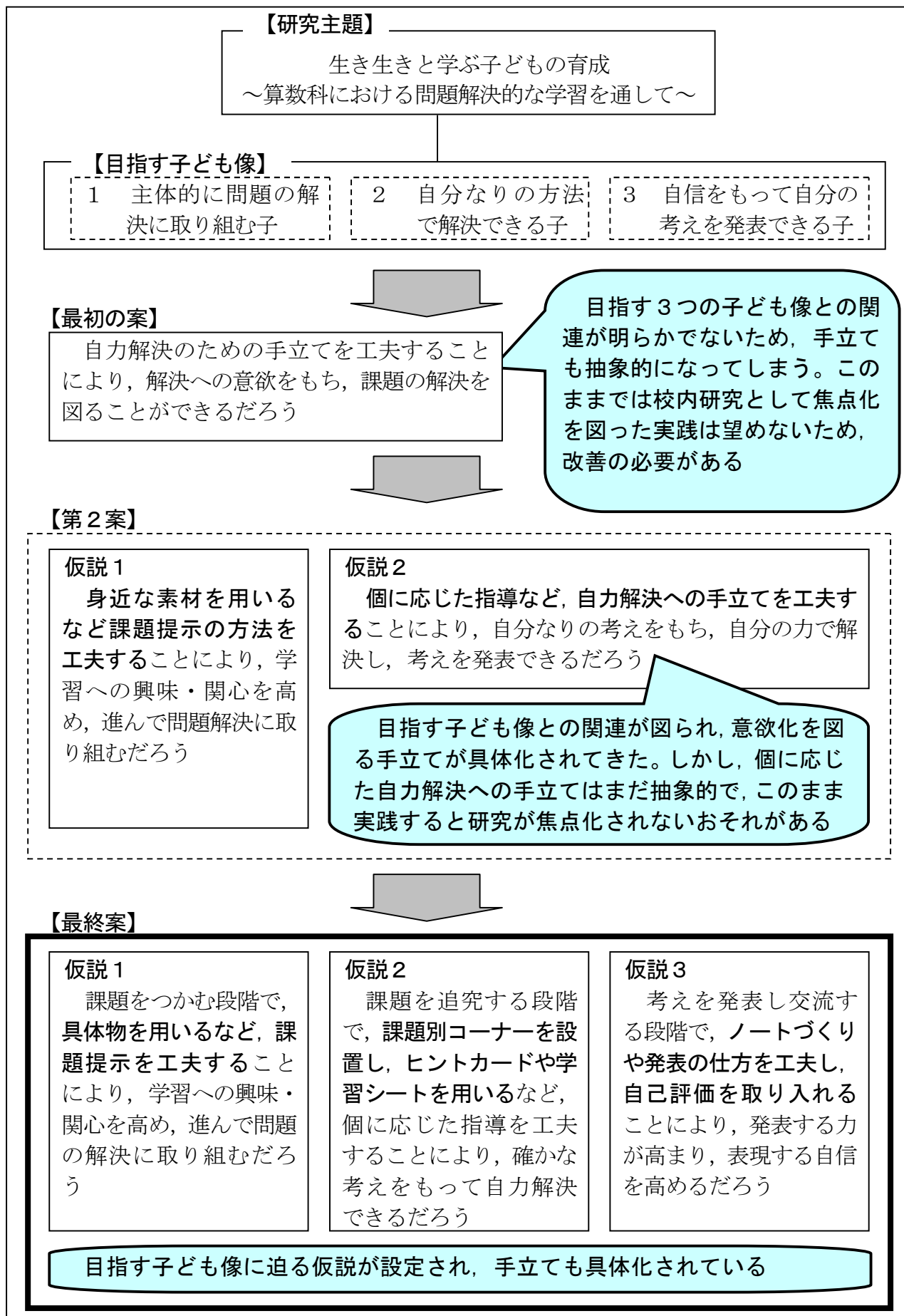
(例2) 基本の仮説と具体的な研究仮説の設定



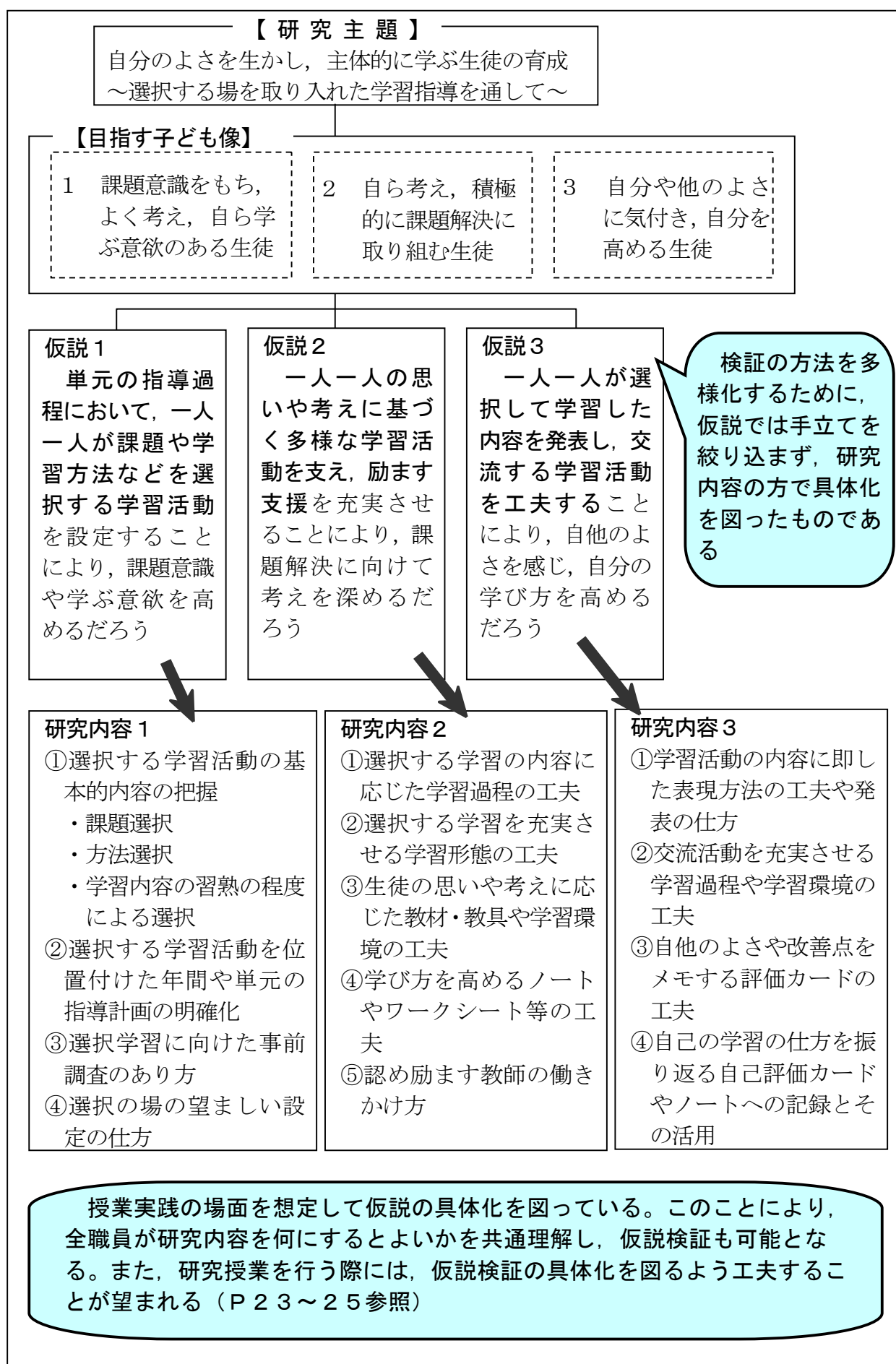
(例3) 具体的な手立てを明確にした研究仮説の設定



(例4) 検討によって改善された研究仮説の設定 (小学校)



(例5) 研究内容まで具体化した研究仮説の設定 (中学校)



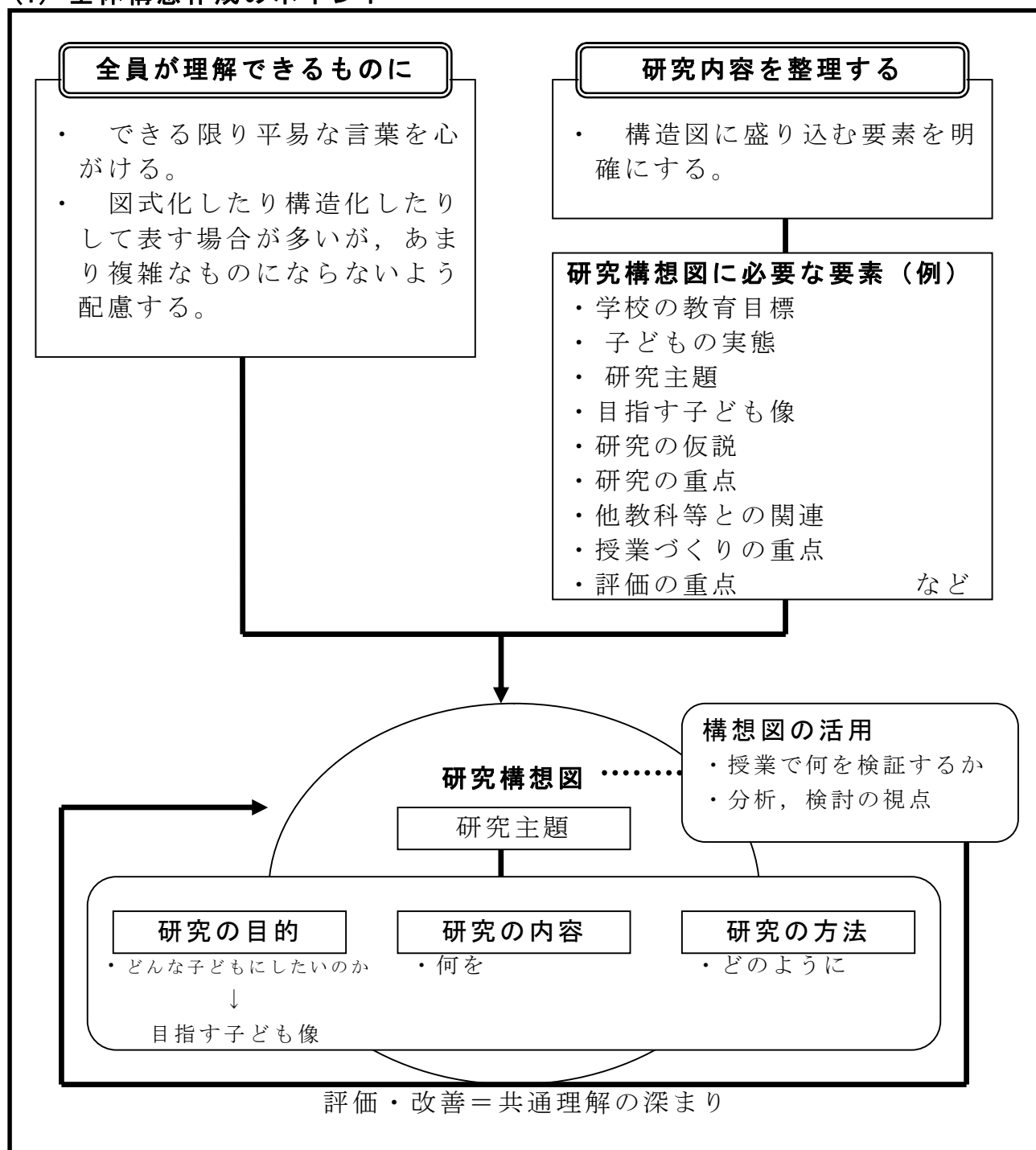
検証の方法を多様化するために、仮説では手立てを絞り込まず、研究内容の方で具体化を図ったものである

Q 5 研究の全体構想はどのようにつくとよいですか

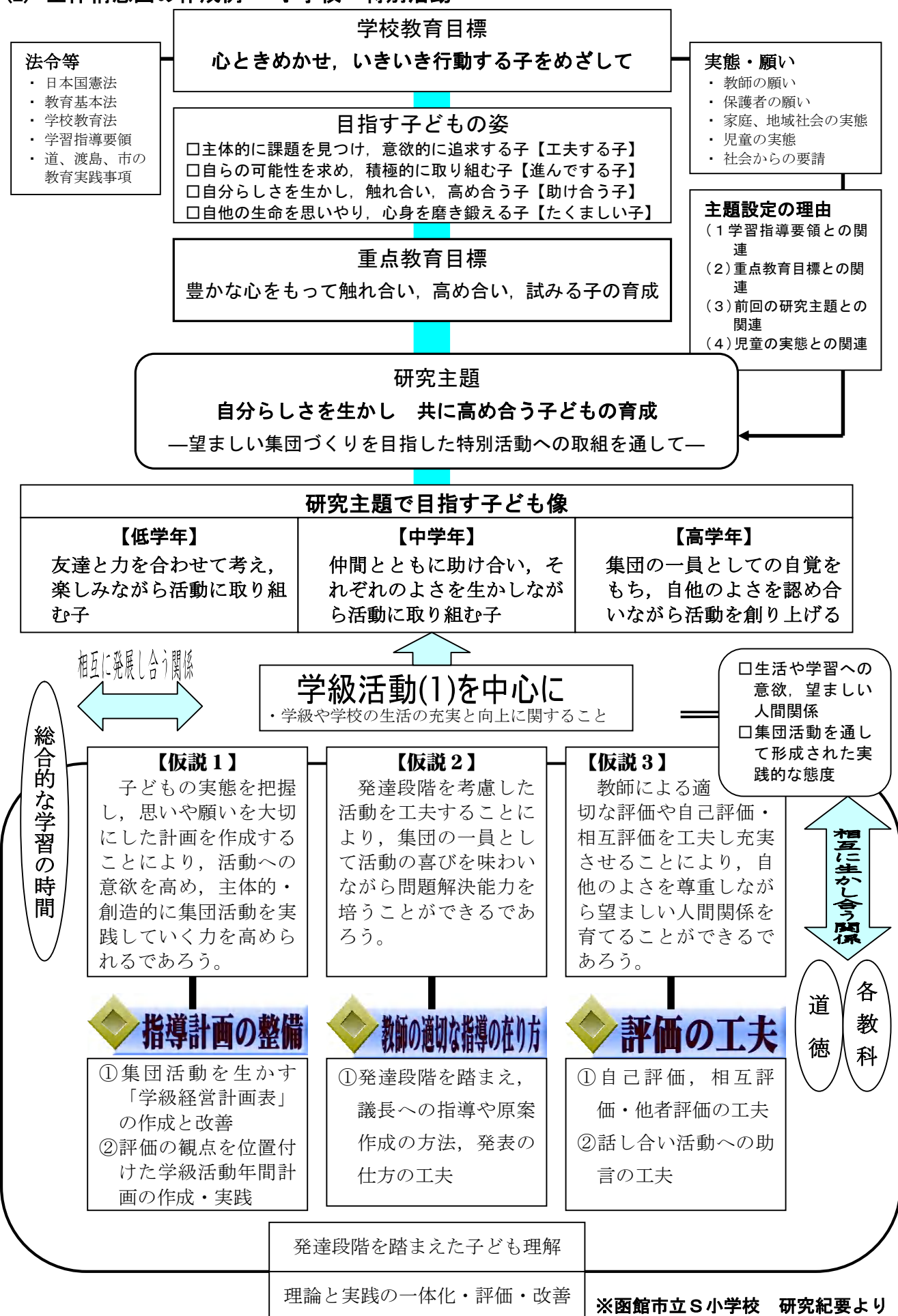
研究の全体構想図は、研究の大枠を示したものであり、研究の初期段階で作成するとともに、研究を進める中で適宜、修正・改善を図り、共通理解を深めていくことが重要である。

研究構想図は、研究主題解明のためのねらい（目指す子ども像）・内容・方法などをわかりやすく示すことに配慮して作成することが大切である。

(1) 全体構想作成のポイント



(2) 全体構想図の作成例 —小学校 特別活動—



Q 6 研究仮説の検証はどのように行くとよいですか

(1) 研究仮説の検証のポイント

研究仮説の検証は、子どもの変容を、継続的な見取りによって進めることが大切であり、検証の方法としては多様な方法（⇒P 22 検証の方法）が考えられるが、何よりも実践（授業）を通して検証することが重要である。

授業実践は、同じ指導計画・指導案で行っても、同じ結果が得られるとは限らないことから、多様な指導者の実践を総合して検証し子どもの変容を目指す研究を推進することが大切である。

仮説検証＝授業実践と考えると、その充実を図るためには、次の4つの視点に留意して取り組む必要がある。

日常化

日常の教育活動を「研究」という視点からとらえ、実践していく。その中で子どもの変容や成果、課題を把握し、毎日の学習指導や生徒指導に結び付けられるようにする。

協働化

教師全員の分担を決め、指導内容や方法を共通理解した上で、互いの実践から学び合う意識をもちながら、研究の課題や問題点を明らかにする。

実践化

調査・理論研究など様々な研究方法で研修したものを、授業研究を通して具体化し、検証する。

継続化

前年度の研究の成果や内容、方法を今年度に継続し、次年度に生かすようにする。そのためにも、**マネジメントサイクル**（計画⇒実践⇒評価⇒改善）の**確立に努める**。

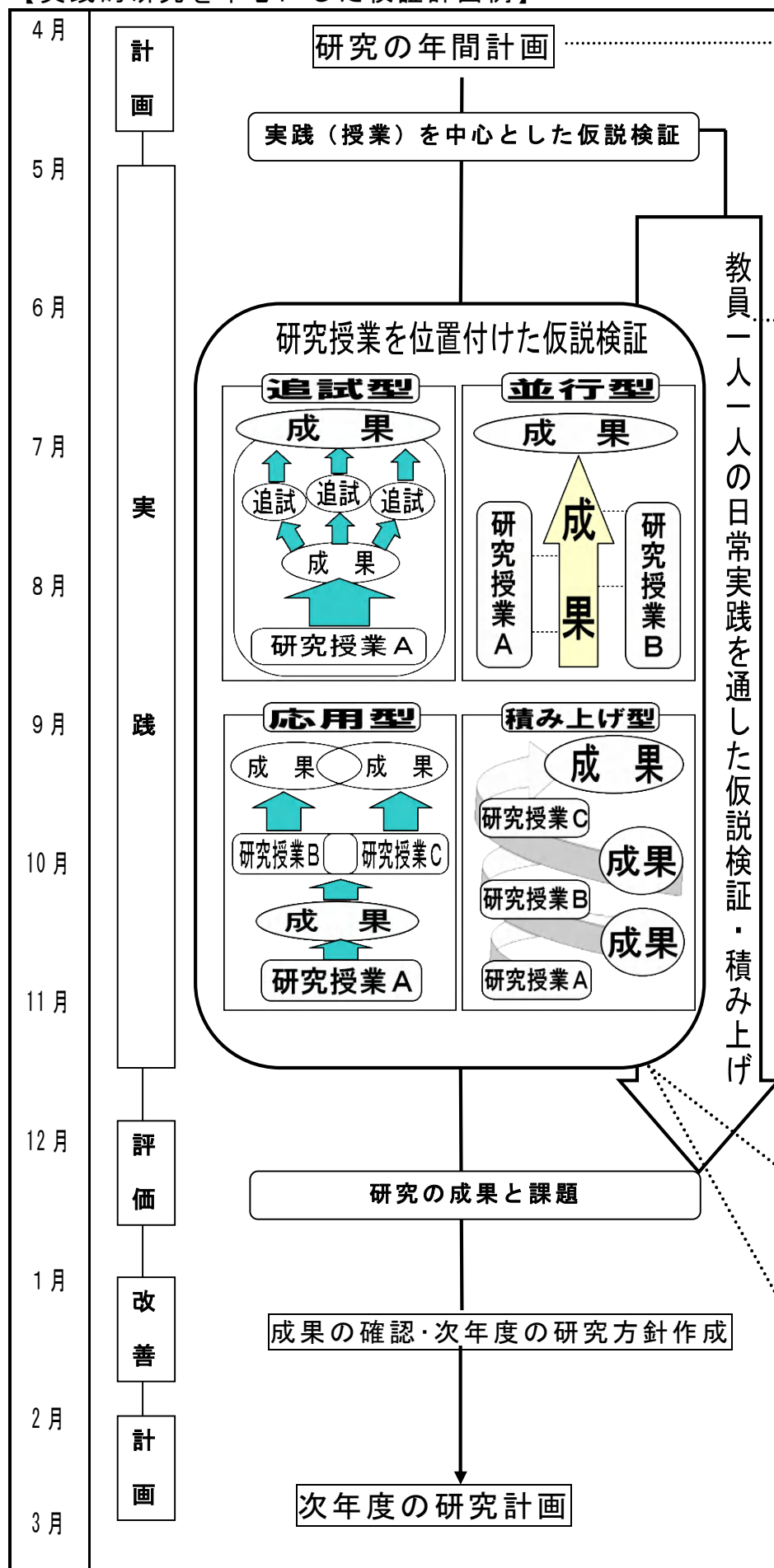
(2) 研究仮説の検証のための計画づくり

仮説検証は、教員一人一人が研究仮説に基づいた日常の研究実践を積み上げ、その中で得られた子どもの変容を成果として押さえ、研究授業を通して検証を行っていくことが大切である。

そのためには、年度当初から見通しをもち、研究の目的・内容・方法を確認した上で、「どのような観点で」「どのように分析するか」を明確にして、継続的な実践を目指した検証計画を立てて研究を進める必要がある。

また、協働化の観点からも、仮説検証の視点に立った指導案の作成やデータ収集・分析を共同で行うことも重要である。

【実践的研究を中心にした検証計画例】



○ 推進計画を明らかにするとともに、全教員で共通理解を図る

○ 研究計画に基づき、仮説検証のための授業を行う

○ 研究全体を通じて、計画⇒実践⇒評価⇒改善のサイクルを確立し、成果の累積を図る。

○ 子どもの変容を記録し、累積する。
(⇒ P 22. 検証の方法)

(3) 検証の方法

授業研究を通して仮説を検証することにより、多くのデータを集めることができる。

また、あくまでも「子どもの変容」という、事実に基づいた仮説検証が行われなくてはならない。子どもの変容を次のような方法でとらえ、総合的に分析することが大切である。

【検証方法の例】

□ペーパーテスト法

何を重視して問題作成するかを明確にする。

□面接法

時として人物評価に陥りやすいため、仮説に基づいた場面ごとの評価項目を位置付けた上で面接をする。

□観察法

行動・発言・発表・実技などを観察する。教師の主観や先入観念での評価にならぬよう、意図的・計画的に行うことや、複数の教師が見取ることも必要である。

・チェックリスト法

□自由記述法

- ・自己評価
- ・相互評価
- ・他者評価

□評定尺度法

教師による評価の他に、自己評価や相互評価を組み合わせ、評価の有効性を高める必要がある。

□作品法

□質問紙法

□SD法

心理学的測定の一つで、「明るい」と「暗い」、「早い」と「遅い」などの一対の形容詞を置いた尺度を多数用意し、学習状況をイメージで評価することができる。

など

【観察チェックリストの例】

〔4年理科〕

〔4年2組〕

単 元 名	学 習 活 動	評 価 項 目						
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
あたたかくなると	・身のまわりの動植物について話し合う	進んで話合いに参加している	進んで自分の意見を発表している	積極的に作業に取り組んでいる	進んで課題を探している	いろいろな解決方法を見出している	結果から発展的な考えを発表する	学習内容をしっかりとまとめている
植物の成長の様子を調べよう								
1	○ ○ ○ ○							○
2	△ △ △ △	○		○				
3	:		✓					
4	:				○			

○：積極的な態度 ✓：消極的な態度

【さまざまな評価方法を組み合わせた検証例】

《教師による観察》

【思考・判断】 議論や提案理由に沿って考え、判断することができたか。 【技能・表現】 自分の考えを大切にしながら、よりよい決定を目指して意見を述べることができたか。	※ ☐ は、提案者とともに計画委員会として、企画を担当した児童
--	---

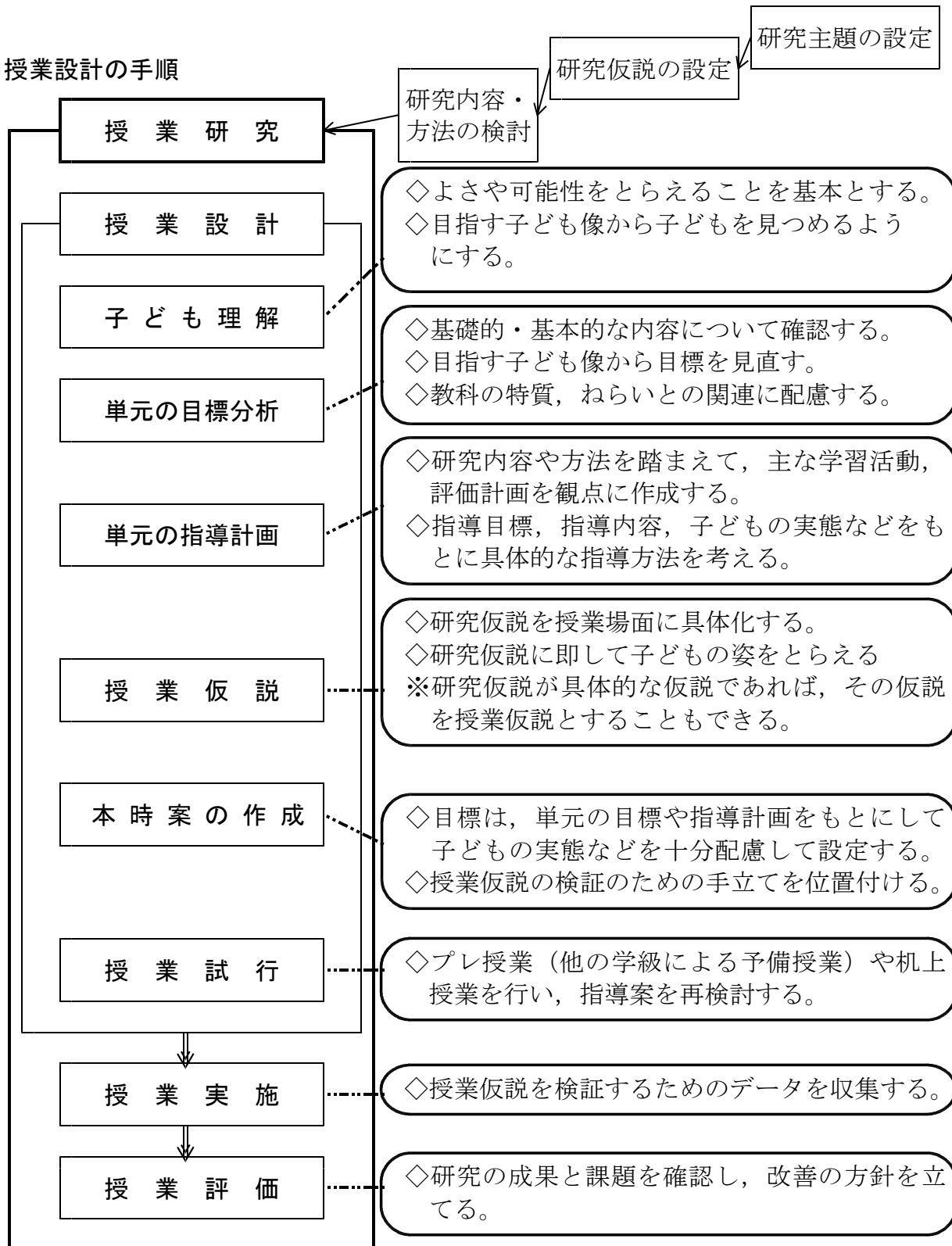
《自己評価・相互評価》

5年 学級会 ふりかえりカード 名前	
今日の課題 おたがいによく知り合える交流会の内容を考えよう。	
よりよい決定を目指して、意欲的に話合いに参加することができたか ①	②
課題をしっかりと整理しながら、話合いに参加することができたか ①	②
学級全体のことを考えながら、意見を考えることができたか ①	②
自分のがんばりを、自分で探めよう！ 今日は初めての学級会で、1番おもしろかった。でも、まだ意見がなかった。	友達のがんばりを見よう！ 議事録の議題を整理したから。
先生からのメッセージ 今日は初めての学級会で、1番おもしろかった。でも、まだ意見がなかった。	先生からのメッセージ 今日は初めての学級会で、1番おもしろかった。でも、まだ意見がなかった。

Q 7 授業研究を進めるためには、どのようなことに配慮するとよいですか

授業研究を実施する際は、手順を明らかにし、仮説を検証する具体的な方策を指導計画に位置付け、子どもの変容をしっかりとらえることができるよう工夫することが大切である。

(1) 授業設計の手順



(2) 指導案例 ー中学校 数学科ー

数 学 科 学 習 指 導 案 (一部省略)

1 単元名 4章 平行と合同

2 単元について

この単元で学習する図形に関する知識は小学校で既に扱っており、ここでは、新しい知識を学ぶというよりも既習の知識を整理しながら始め、演繹的な推論によって図形の性質を調べる方法について学習する。

3 単元の目標

1 節 平行線と角

(関心・意欲・態度)・図形の
・演繹的

<単元の目標分析>

観点別学習状況による4観点から指導目標を分析する

2 節 合同な図形

(関心・意欲・態度) (1) 三角形のどの辺や角に着目すると2つの三角形が合同になるかについて関心をもち、それについて調べようとする。

(数学的な考え方) (1) 2つの三角形が合同になる条件を調べ、合同条件を見いだすことができるようにする。

(2) 根拠となることがらを明確にしながら図形の性質を証明することができる

(表現・処理) (1) 2つの図形が合同であることの意味が理解でき、それを記号を使って表すことができるようにする。

(2) 三角形の合同条件を利用して、図形のいろいろな性質を証明することができるようにする。

(3) 仮定、結論を区別し、それを式などで表すことができるようにする。

(知識・理解) (1) 三角形の合同条件を利用して、図形のいろいろな性質を理解する。

(2) 仮定、結論の意味を理解する。

<単元の指導計画>

評価規準や評価方法を位置付ける

4 単元の指導計画 (16時間扱い: 本時11/16)

項	時	主な学習内容	評価の観点と(◇)と指導の工夫(○)
2 節 合同な図形 (8時間)			
1 合同な図形	8	- 合同な図形の意味を理解する。 - 合同な図形の性質を理解する。	◇ワークシート上で図形(カード)を動かし、重ね合わせることができる図形を見つけようとしているか。(ワークシート)(関心・意欲・態度)
2 三角形の合同条件	11 本時 ・ 12	1年で学んだ作図の確かめをする。 - 三角形の合同条件が証明の根拠として有効に利用できることを理解する。	◇三角形の合同条件を使って証明することに着目しているか。(ワークシート、発表)(数学的な考え方) ○ワークシートを利用する。 ○課題別グループを構成し、話し合わせ、その結果を交流させる。 ○パソコンでシミュレーションを行う。
3 証明のすすめ方	13	証明のしくみを理解する。	◇仮定の部分と結論にあたる部分を分けて書き表しているか。(ワークシート)(表現・処理) ○ワークシートを利用する。
	14	証明の進め方を理解する。	◇仮定から結論を導くための根拠を明らかにしているか。(ワークシート、発表)(数学的な考え方)

研究主題，研究仮説，授業仮説に沿った内容とする。

5 生徒の実態

1年生から続けている【振り返りシート】に，毎時間「本時の自分の課題」と「授業を振り返って」（自己評価）を書いてきたことにより，学習目標を意識しながら自分の課題をつくり，自己評価をする力が育ってきている。

また，数学的な活動を取り入れた学習には，特に熱心に取り組み，1年生のころより図形分野の学習に意欲的に取り組んできた。

グループ学習については，これまで生活班を利用してきたが，今回は，課題別のグループを編成することで，個に応じた指導ができるように工夫している。

＜作図の定着状況＞

- ・垂線の作図 ----- 63%
- ・垂直二等分線の作図 ----- 88%

＜授業仮説＞

子どもの反応や変容を予測しながら授業過程のどこに，どのような手だて（指導方法・教具・資料等）を講じるかを踏まえて授業仮説を立てる。

6 授業仮説

＜仮説①＞

既習内容をもとに課題を設定し，課題別グループで学習を進めることにより，一人一人の表現の場が確保され，主体的に学習に取り組ませることができるであろう。

＜仮説②＞

毎時間「自分の課題」や自己評価「授業を振り返って」を書かせることにより，学習への見通しをもつことができ，意欲的に学習に取り組むことができるであろう。

＜仮説③＞

ヒントカードの提示や机間指導を行うことにより，生徒一人一人の学力を高めることができるであろう。

＜本時案の作成＞

授業仮説の検証内容や検証方法を位置付ける。

7 本時案

題材名 三角形の合同条件

本時の目標 (関心・意欲・態度) 論証の面白さに気づき，論証の進め方に関心をもとうとする。
(知識・理解) 三角形の合同条件を用いると，作図の根拠を示すことができることを理解する。

本時の展開

段階	学 習 活 動	教 師 の 支 援	評 価 の 観 点
課 題 把 握	・本時の「自分の課題」を書く。 【仮説②】 ・前時の学習を想起する。	○学習への見通しをもった学習課題になるように助言する。 ○前時までのノートやワークシートを見て確認させる。	○自ら学習課題を設定させることで，学習への見通しをもち，意欲的に学習しようとしているか。(仮説②の検証)
課 題 追 求	課題 作図が正しい理由を三角形の合同条件を使って説明してみよう。 ・本時の課題を把握する。 ・1年で学んだ作図を想起する。 ・確認する作図方法を選択する。 【仮説①】	○ワークシートにより課題を確認させる。 ○角の二等分線，垂線，垂直二等分線を作図したことを思い出させる。 ○シミュレーションソフトにより理解を深める。 ○一人一人の学習内容の習熟の程度に応じた課題を選択しているか確認し，自分で説明できそうな作図を選択するように助言する。 ○課題別の班を4～5人を1班として構成させる。	○論証の進め方に関心をもって学習している。(ワークシート，発表)(関心・意欲・態度) ○課題別グループを編成し，自ら課題を選択させることで，自ら進んで学習に取り組んでいるか。(仮説①の検証)

Q 8 授業評価はどのようにすればよいですか

授業評価は、仮説の有効性を確かめ、授業の改善を図るために行うものである。子どもの変容や学習活動の状況から多面的に評価するために授業評価の計画を立て、収集したデータを整理し課題を見出すことが大切である。

(1) 授業評価の計画

具体的な観察内容、場、方法、分担等をきめ細かく決めておくことが有効である。

	誰が⇒誰の	内 容 (何 を)	方 法 (どのように)
日常実践において	授業者⇒授業者	・指導方法について ・指導計画について ・教材について	・V T R
	授業者⇒子ども	・学習活動について ・学習の到達度について ・学級の雰囲気や人間関係について	・V T R ・イメージマップ ・アチーブメント
	子ども⇒授業者	・指導方法について ・教材について	・評定尺度法 ・自由記述法 ・質問紙法
	子ども⇒子ども	・自他の学習活動について ・学級の雰囲気や人間関係について	・評定尺度法 ・自由記述法 ・質問紙法
研究授業において	参観者⇒授業者	・指導方法について ・指導計画について ・教材について	・評定尺度法 ・自由記述法 ・チェックリスト法
	参観者⇒子ども	・学習活動について ・理解度について ・学級の雰囲気や人間関係について	・評定尺度法 ・自由記述法 ・チェックリスト法

(2) 研究授業における役割分担

- ・ 座席表を使い、個々の子どもたちの学習状況を記録する係
- ・ 研究の視点（授業仮説）に立って子どもを観察する係
- ・ 必要に応じてVTR、カメラ、テープレコーダー等記録をする係
- ・ 教師の発問、子どもの反応を記録する係

授 業 記 録

2 年 C 組 教科 数 学

授業者 ○○ ○○

2005 年 9月22日（木）5教時

単元 4章 平行と合同

記録者 ○○ ○○

時間	教 師 の 行 動	学 習 者 の 行 動	備考（教材・板書等）
13:30	・ 振り返りシートに今日の自分の課題を書きましたか。	・ はい（授業前に配付され記入済み）	
13:31	・ 前の時間は三角形の合同条件を使って合同な三角形を見つけました。 合同条件を言えますか。 合同条件カードを見てもいいので声を出しましょう。	合同条件カードを見る。	・ 黒板に合同条件カードを提示する。

(3) 授業記録の整理、分析のポイント

授業記録を整理するときには、子どもの変容を中心に、授業仮説が適切であったかを記録から読みとり、成果と課題をまとめるとともに、集団とのかかわりにおける個人の変容を吟味することが大切である。

また、授業仮説の検証のために次のような観点を明確にしておきたい。

授業記録の分析のポイント

- (1) どの子どもに変容がみられたか。
- (2) どのような変容を示していたか。
- (3) どのような事実から言えるか。
- (4) 学級全体ではどのような変容の傾向がみられたか。
- (5) その変容は指導のどのような手立てによるものか。

Q 9 研究成果を効果的に活用するにはどのようにすればよいですか

研究実践を実りあるものにするためには、実践に関する様々な記録を累積する必要がある。また、集められた記録が効果的に活用できるように、記録の整理や検証を加えるなど、累積の仕方を工夫し、次の研究に生かすことが大切である。

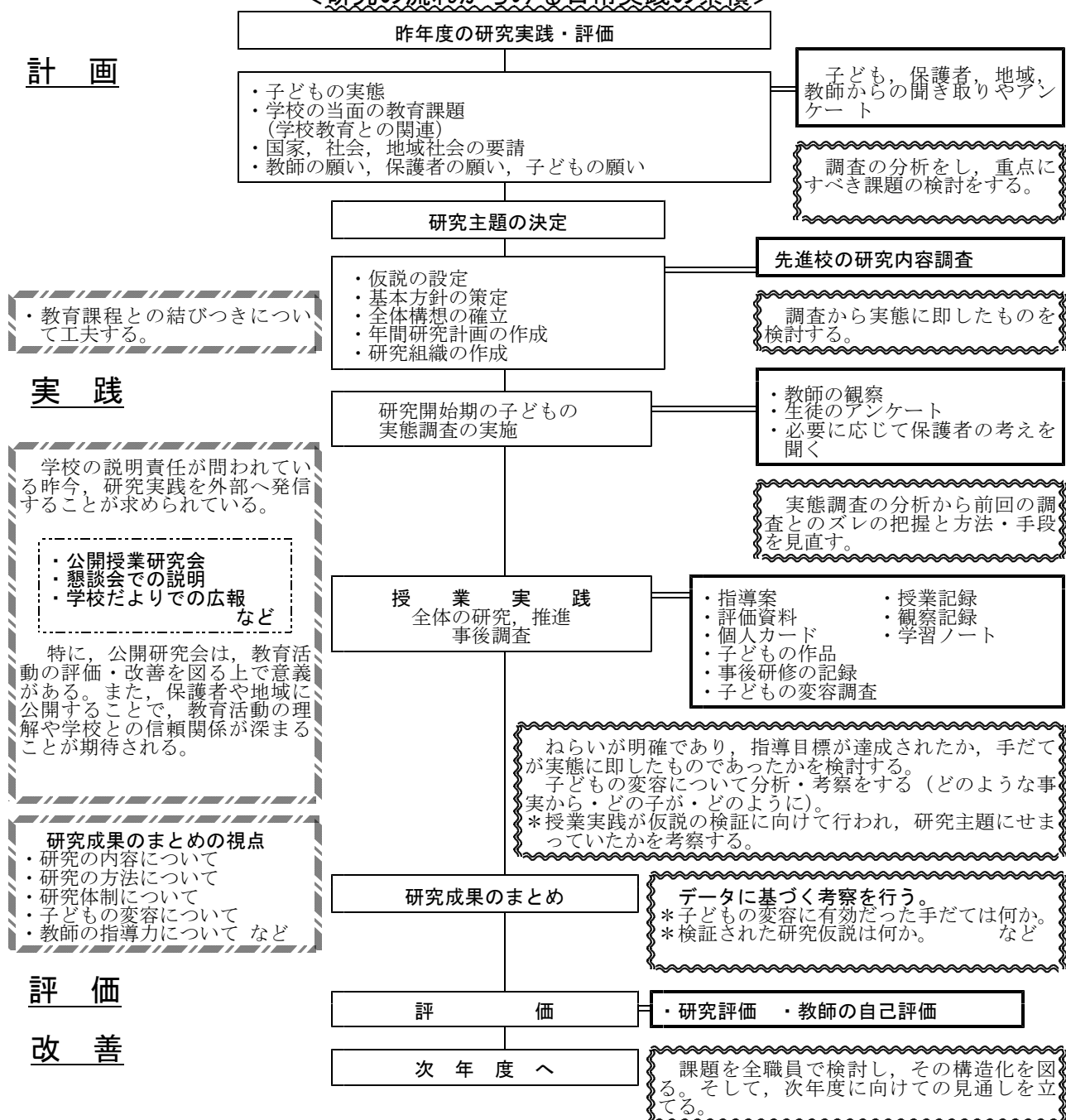
(1) 研究実践の累積を行う

① 意図的、計画的に行う

研究を進める上で、指導内容や方法の改善を図るために、いつ、どんな方法で指導したのか、子どもの変容は見られたかなどのデータを累積していくことが必要となる。

そのためには、研究の流れを見通して、適切にデータを収集・分析し、計画的、段階的に進めていくことが大切である。

<研究の流れからみる日常実践の累積>

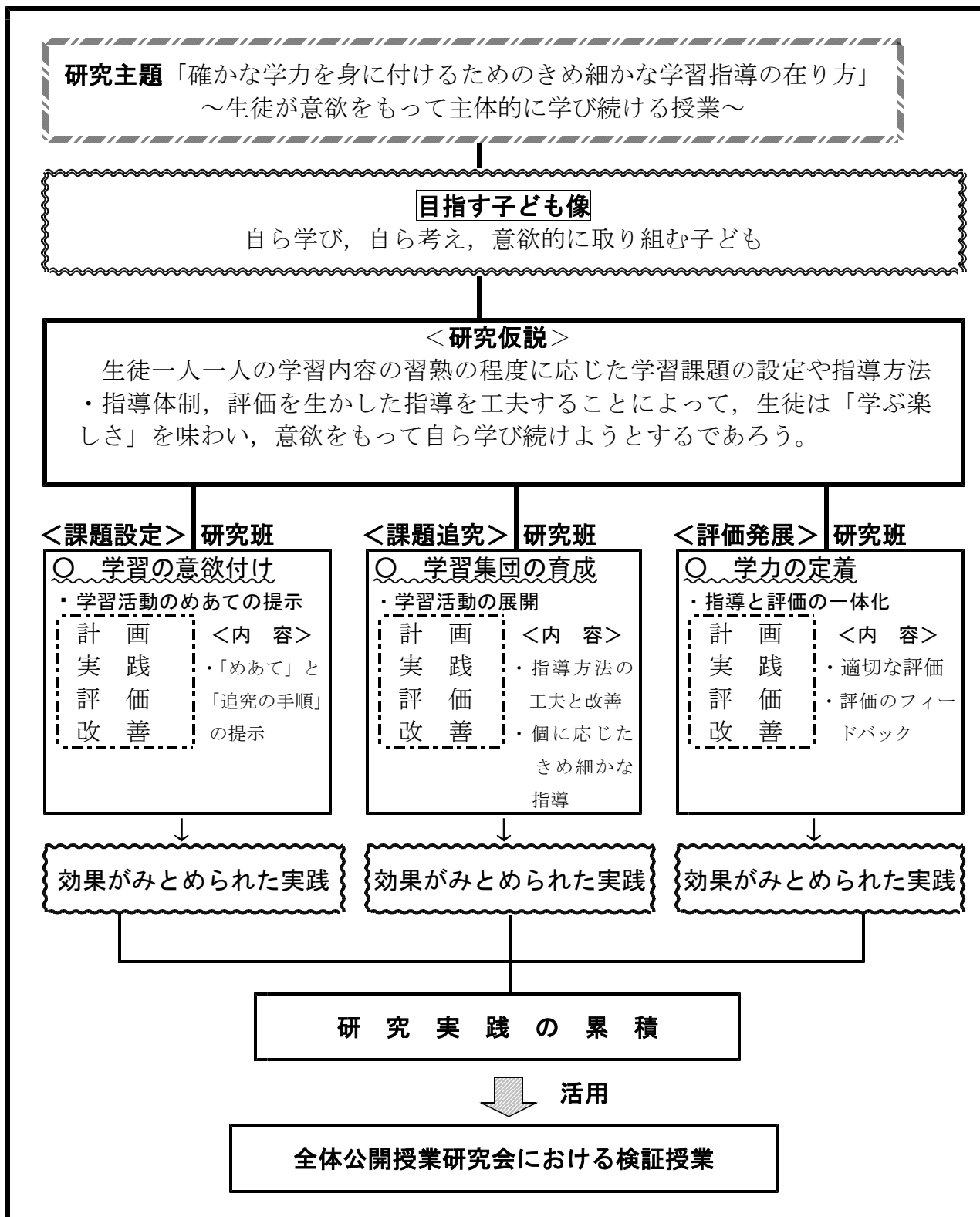


② 組織的に行う

研究の成果を有効に活用するためには、実践の成果と課題を累積し、成果を全教職員が活用できるシステムをつくる必要がある。

それによって、全教師が一体となって課題追究に向かっていく意識が高まり、教育活動の充実に大きな推進力を生み出すこととなる。

研究グループ間の連携を図ったデータの累積例（中学校）



(2) 研究資料や実践記録の整理の方法を工夫する

校内研究を進めていく過程では、様々な資料や印刷物が収集されるが、これらの研究情報を、効率的に整理することが大切である。

① オープンファイル方式の実践例

図のようにケースを用いて、一般の図書のように書架や机の上に立てておく方法である。この実践例では、次の点に留意して、研究推進委員会で整理、保管に当たっている。

- ① 印刷物は、原則として、A4判、横書きとし、左肩に資料提供者を明記する。
- ② コピーなどは、台紙に貼る。
- ③ 初めから細かい分類にしないで、必要に応じて、枝分かれ式に小分類する。ケースの色別で大分類するほか、ラベルを利用して小分類する。

例) 1-1 研究主題に関する資料
2-1 研究推進委員会
3-1 研究授業指導案記録 (国語)
3-2 同 (社会)
4-1 先進校研究物

など



② コンピュータを利用した実践例

現在、研究実践のために作成される資料は、コンピュータソフトを利用したものが多くなってきている。また、校内のコンピュータのネットワーク化も進んできており、情報の利活用がこれまで以上に可能な環境となっている。

そこで、学校にある共有のコンピュータ（誰もが自由に利用できるコンピュータ）に研究実践で作成した資料や指導案・レポート等を項目ごとのフォルダに整理し、保存することも有効である。

フォルダの例)	①研究理論等	例)「研究の概要」「〇〇小の実践」
	②教科・学年	例)「指導案 (〇〇科)」「高学年指導案」
	③指導法	例)「個に応じた学習」「TT学習指導案」
	④テーマ別	例)「環境に関する指導案」「食育の実践」
	⑤日常実践	例)「研修レポート」

指導案を教科別にだけ分けるのではなく、テーマや授業の形態などに分類し累積することで、さらに活用の幅が広がる。

ただし、インターネットが利用可能な環境のコンピュータを使用する場合は、個人情報に関して、特に配慮する必要がある。

(3) 記録を整理・総合し、考察する

累積された授業記録や各種調査の結果を、分類により整理・総合し、そのデータに基づいて考察を加え、研究の成果と課題をまとめることによって、その後の研究に有効に活用することができるようになる。

整理・総合の視点

- ・累積された記録を、「研究前と研究後の子どもの姿」、「研究仮説ごと」、「研究内容」ごとにまとめる。
- ・記録に基づき、「変容した子ども」、「変容の状況」、「評価の根拠」を明らかにする。

考察の視点

- ・子どもを変容させた有効な手立ては何か。
- ・子どもの変容が見られなかった手立ては何か。また、その原因は何か。
- ・今後の研究に活用できる研究の手立ては何か。
- ・今後、改善が必要な研究の手立ては何か。
- ・さらに効果が期待できる研究の手立ては何か。

まとめの視点

- ・研究内容に関する事
- ・研究方法に関する事
- ・研究体制に関する事
- ・子どもの変容に関する事
- ・教師の指導力に関する事
- ・指導方法 など

<研究仮説に基づき、記録を累積し活用した例>

研究仮説

個に応じた指導の手だてを工夫することにより、自分の言葉で表現し、主体的に話し合うことができる。

研究仮説の具体化

「個に応じた指導の手だてを工夫することにより」という手だて

個別指導、グループ別指導、繰り返し指導、学習内容の習熟の程度に応じた指導など、子どもの実態や指導の場面に応じた指導方法を工夫する。

成果と課題

個別指導、繰り返し指導、学習の内容の程度に応じた指導を効果的に取り入れることで、子どもの学習意欲を高めることができた。

累積された記録

授業記録

- 学習課題
- 観察記録
- ノートや提出物
- 自己評価

各種調査

- 「興味・関心・意欲」にかかわる調査
- 「知識・理解」にかかわる調査
- 学級の状況
- 家庭学習

その他の資料

- 個人カルテ
- 日常観察
- 保護者や地域の評価

子どもの変容

- ・話し合いに参加できるようになった。
- ・自分の言葉でまとめを書けるようになってきた。

考察の視点

有効な手立てとして

学習内容の習熟の程度に応じた指導を取り入れることで、学習に自信をもち、積極的に学習活動に参加するようになる。

Q10 校内研究を活性化するために、評価をどのようにしたらよいですか

校内研究で大切なことは、研究実践が日々の教育活動と結び付き、改善・充実を図っていくことである。そのためには、評価の時期を定め、推進状況を見直す評価や研究への取り組み状況の評価をすることが重要である。

(1) 研究過程における評価例

研究で得た成果を生かすために、年度当初から評価の時期や評価項目をあらかじめ明確にしておくことが必要である。そうすることで、常に評価を意識した実践が繰り返されることとなる。

研究過程	評 価 項 目	評価の時期		
		計画	実践	評価
主題の設定	① 子どもの実態や学校課題から把握された切実なものか ② 学校の教育目標や重点目標に結び付いているか ③ 家庭・地域の願いが把握されているか ④ 主題は教師に理解され、解決の意欲をもてるものになっているか ⑤ 社会的な要請や今日的な課題は踏まえられているか ⑥ 課題は十分に分析され、焦点化・具体化されているか ⑦ 研究期間や組織の実態を考慮したものになっているか	○		
子ども像の設定	① 子ども像は明確であり、具体性をもっているか ② 学校の課題を解決し、学校の教育目標の達成に関連深い子ども像になっているか	○		○
仮説の設定	① 子どもにどのような変容が期待できるのか明らかにされているか ② 検証の手だてが明確で具体的なものであるか ③ 場所や内容など、研究対象が限定されているか ④ 仮説の構成要素が分析され、検証に耐えうるものになっているか	○	○	○
計画の設定	① 研究推進計画は適切であるか（日程・作業・内容・手順等） ② 仮説に対する研究の内容・方法の計画が適切に設定されているか ③ 研究の検証計画が具体的であるか ④ 学校組織の実態や、研究成果を生かす計画が立てられているか ⑤ 研究計画は柔軟なものとなっているか	○	○	
研究実施の過程	① 研究の内容と方法が適切に組み合わせられて実施されたか ② 検証のための資料収集の準備が整えられ、正確に記録されているか ③ 子どものよさを伸ばすことへの配慮がなされていたか ④ 研究実践を常に評価しながら、目標に即して研究が進められたか ⑤ 仮説と成果を常に比較しながら、検証を正しく行っているか		○	
研究成果のまとめ	① 子どもはどのような条件で、どのように変容したかを正確にとらえたか ② 仮説検証のための資料が収集され、総合的な考察がなされたか ③ 事実と推測が区別され、考察がなされているか ④ 成果と課題が明らかにされたか ⑤ 研究記録のまとめが適切であったか		○	○
研究成果の活用	① 研究成果を日常実践の中でどう活用するか、明らかになっているか ② 研究成果を次の教育活動に生かすための方向付けがなされたか			○

(2) 研究に対する教師の自己評価例

次の評価表は、研究の推進にかかわる教職員の取組状況を、「研究の目的や方法についての共通理解」、「研究意欲」、「協力体制」の三つの視点に立って全教職員が自己評価したものである。

① 計画段階での評価

視 点	項 目	評価	改善策
共通理解	校内研究の意義やねらいについて、共通理解しましたか。		
研究意欲	学校が当面する課題に関する資料の収集と提供を、意欲的に行いましたか。		
協力体制	生徒、保護者、教員の実態の把握を、協力して行いましたか。		

② 実践段階での評価

視 点	項 目	評価	改善策
共通理解	研究主題、研究の重点について、共通理解をしていましたか。		
意 欲	研究計画に基づく研究実践を意欲的に行いましたか。		
協力体制	研究実践を組織的に協力し、資料・記録の累積などを行いましたか。		

③ 評価段階での評価

視 点	項 目	評価	改善策
共通理解	研究の評価の観点や方法、評価結果の活用の仕方を、共通理解しましたか。		
意 欲	研究の評価に必要な資料の収集、活用を、意欲的に行いましたか。		
協力体制	研究の評価結果や残された課題を、協力して検討しましたか。		

評価 4～よい 3～ややよい 2～やや不十分 1～不十分

上の評価による集計結果の事例と考察例

過 程	視点別評点平均			評点平均
	共通理解	意 欲	協力体制	
計 画	2. 8	2. 4	3. 0	2. 8
実 施	3. 6	3. 2	3. 2	3. 3
評 価	3. 5	3. 3	3. 5	3. 4
評点平均	3. 3	3. 0	3. 2	3. 2

<考察例>

- ・ 集計結果を見ると評点平均は、計画の段階がもっとも低いですが、実施、評価の段階に進むにつれて評価が徐々に上がっている。このことから、研究の内容が徐々に浸透し、実践を通して充実してきたものと考えられる。
- ・ 視点別に見ると、共通理解・協力体制は、高い評価となっており、学校としてのまとまりのある研究を進めることができている。
- ・ 意欲の評点が、やや低くなっているが、このことから教職員一人一人が意欲的に授業実践に取り組めるように、研究資料の提供や時間の確保などの環境の整備などを行う必要がある。
- ・ 計画段階の評定が低いので、研究推進のための共通理解を深めるため、仮説の設定や研究内容、方法をより具体的にしていかなければならない。
- ・ 全教職員が協力して、研究を進めることができたと考えられる。

【主な参考・引用文献】

新しい研究主任の役割と実務	東洋館出版	教育活性化研究会	編著
校内研究運営実務百科	第一法規		
小学校 校内研究・研修の進め方	文教書院	羽豆成二	編著
小学校 校内研究進め方事典	教育出版	西村文男	編著
絶対評価実践マニュアル	学陽書房	鈴木節也	編著

＜学校教育指導資料作成委員会＞

委員長	函館市立駒場小学校	教頭	小山	みゆき
副委員長	函館市立桐花中学校	教諭	三浦	佐和子
委員	函館市立柏野小学校	教諭	島	修一
委員	函館市立旭岡小学校	教諭	長縄	達幸
委員	函館市立昭和小学校	教諭	福永	英丈
委員	函館市立戸倉中学校	教諭	中田	宗男

平成１７年度 学校教育指導資料

「指導力の向上を図る校内研究の充実のために」

～校内研究推進の手引～

発行 函館市教育委員会
函館市東雲町４番１３号
電話（０１３８）２１－３５５７
発行日 平成１８年３月２５日
